

取付説明書

- このたびは、東洋エクステリア製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、あなたや他の人々の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容(指示)にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味


警告

- 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。


注意

- 取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

一般情報に関する記号


ポイント

- 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- 守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。



- 取付説明の内容全体(個々の説明枠)にかかる注意事項を示しています。
- 取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。


補足

- 説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

<施工の前に>


注意

- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 施工終了後、取付説明書は施主様にお渡しください。
- 部材変形防止のため、製品保管状況を確認してください。
 - ・当製品は、木粉入りポリエチレン樹脂でできており、熱変形することがあります。取扱いには十分ご注意ください。
 - ・平らな場所に保管してください。(立てかけて置かないでください)
 - ・暖房機、焚き火近くの高温になる場所には保管しないでください。
 - ・製品上に重量物を長時間重ね置きしないでください。
- 設置場所を確認してください。
 - ・給湯器や暖房機などの熱排気が、製品に直接当たらないように施工してください。熱による部材の変形・劣化のおそれがあります。
 - ・施工場所に寸法的に正しく納まるか確認してください。
 - ・本製品は一般住宅の一階相当部施工用です。それ以外の場所への取付けはおやめください。
- デッキ上にフェンス等の上物を設置する場合は、あらかじめ指定の床板補強材を組込み施工してください。
- 施工プランと必要部材が揃っているか確認してください。

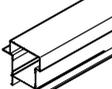
<施工上のご注意>

⚠ 注意

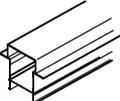
- 取付説明書の指示通りに組付けてください。製品の強度の低下、材料破損をする場合があります。
- 束柱の移動範囲は弊社指定範囲にしてください。
- ネジは弊社純正品の規定本数を確実に締付け、固定してください。
- 基礎石は指定寸法以上のものを使用し、確実に設置してください。
- 製品の表面に付着したモルタルやコンクリートなどは、速やかに拭き取ってください。
- 施工中についた表面すりキズは、引き渡し前に研磨紙で補修してください。表面研磨する場合は、事前の研磨方向に沿って(平行)行なってください。
- 施工中についた表面の汚れやシミは、引き渡し前に水洗い等をしてください。中性洗剤を薄めたものを使用した場合は、よく水洗いをしてください。

■梱包明細表

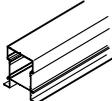
①前桁セット

名 称	略 図	員 数		
		1.5間	2.0間	2.5間
前桁		1	1	1
幕板受材		5	6	7
①-① φ4×13ナベピアスネジ		5	6	7

②内桁セット

名 称	略 図	員 数
内桁		1

③側桁セット

名 称	略 図	員 数
側桁		1

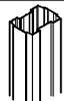
④桁組付金具セット

名 称	略 図	員 数	
		4ヶ入	6ヶ入
桁組付金具		4	6
④-① φ4×13ナベピアスネジ		16	24

⑤桁連棟部品セット

名 称	略 図	員 数
桁スリーブ材		6
⑤-① φ4×13ナベピアスネジ		48

⑥束柱Aセット

名 称	略 図	員 数	
		2本入	8本入
束柱A		2	8
束柱固定金具		4	16
フィッシャープラグS6		4	16
⑥-① φ4×13ナベピアスネジ		16	64
⑥-② φ4.5×32丸木ネジ		4	16

7 束柱Bセット

名 称	略 図	員 数	
		2本入	8本入
束柱B		2	8
束柱固定金具		4	16
フィッシャープラグS6		4	16
7-① φ4×13ナベピアスネジ		16	64
7-② φ4.5×32丸木ネジ		4	16

8 床板セット

名 称	略 図	員 数
床板		2

9 幕板セット

名 称	略 図	員 数
幕板		2

10 床板固定ネジセット

名 称	略 図	員 数	
		基本セット	追加セット
固定ネジ治具		2	—
補修用研磨紙B		6	—
取付説明書<E119>	—	1	—
取扱説明書<UE020>	—	1	—
10-① φ4×55 サラピアスネジ D=8		300	100

11 床板補強材セット

名 称	略 図	員 数	
		デッキ用	EX用
補強材(L)		1	—
補強材(S)		—	1
11-① φ4×13ナベピアスネジ		20	4
11-② φ4.5×56丸木ネジ		—	8
11-③ φ3.8×20ナベ特殊ネジ		—	40

12 幕板コーナーキャップセット

名 称	略 図	員 数	
		90°用	フリー用
幕板90°コーナーキャップ		1	—
幕板フリーコーナーキャップA		—	1
幕板フリーコーナーキャップB		—	1
12-① φ4×14 サラタッピンネジ1種 D=8		4	4

13 束柱化粧材セット

名 称	略 図	員 数
束柱化粧材		2
13-① φ4×35 サラピアスネジ D=8		4

14 躯体付アングルセット

名 称	略 図	員 数
躯体付アングル		1
14-① φ6×70 六角タッピンネジ1種		6

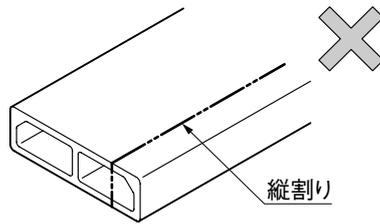
15 内面端部床板セット

名 称	略 図	員 数
内面端部床板		2

INDEX

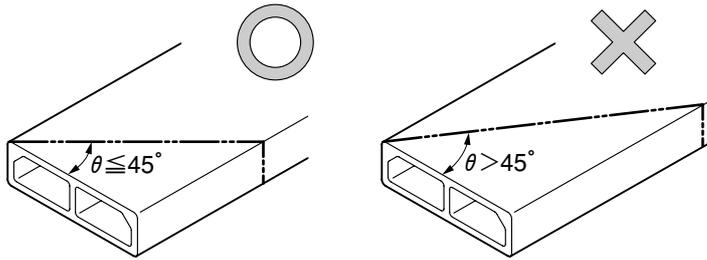
1 施工時の重要確認事項	5
2 全体構成	6
1. 構造概略説明	6
2. 納まり図	7
2-1 出幅納まり	7
2-2 間口納まり	9
2-3 変形納まり	10
2-4 床板補強材納まり	12
2-5 標準納まりの部材 使用数一覧	13
3. 基礎伏図	15
3-1 1.5間	15
3-2 2.0間	16
3-3 2.5間	17
3-4 3.0間	18
3-5 3.5間	19
3-6 4.0間	21
3-7 4.5間	23
3-8 5.0間	25
3 本体の施工方法	27
1. 基礎の位置出し	27
2. 基礎の設置	27
3. 側桁と桁組付金具の組付け	29
4. 桁・束柱の固定	30
5. 柱化粧材の取付け	32
6. 床板補強材の組付け	33
7. 床板の組付け	38
8. 幕板の組付け	39
9. 変形納まり詳細	42
10. 躯体付アングルの取付け	47
11. 施工後の仕上げ	48

1 施工時の重要確認事項



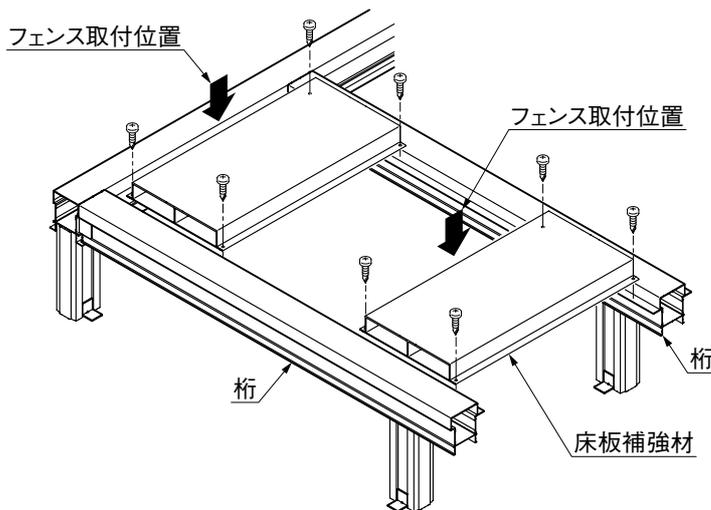
ポイント

- 床板・幕板は縦割りはできません。材料の変形・破損の原因になります。
- 床板の間口調整は、床板枚数単位で行なってください。
(141mm=床幅136mm+目地5mm)



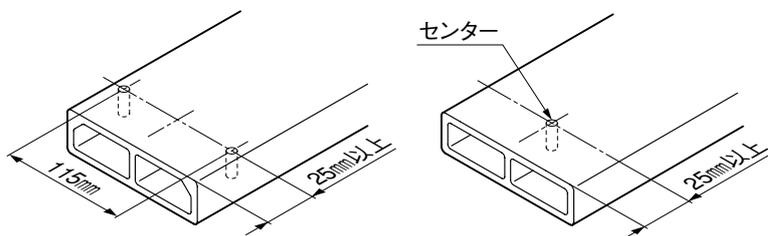
ポイント

- 床板・幕板を斜め切りするときは、 45° 以内にしてください。切り込み過ぎは、材料の変形・破損の原因になります。



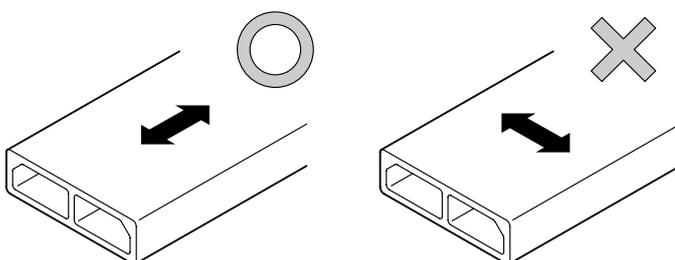
ポイント

- デッキ上にフェンス柱、エクシオール柱等の上物を固定する場合は、あらかじめ指定の位置に床板補強材を入れてください。床板補強材を入れ忘れると、一度張った床板を取外し組付けなければなりません。
- 床板の出幅方向1スパン分の常時最大積載重量が、15kgを超える場所にも床板補強材を入れてください。



ポイント

- 床板・幕板を取付ける際は、専用の固定ネジ治具を使い固定してください。ネジの打込み位置がずれると、材の変形・破損の原因になります。

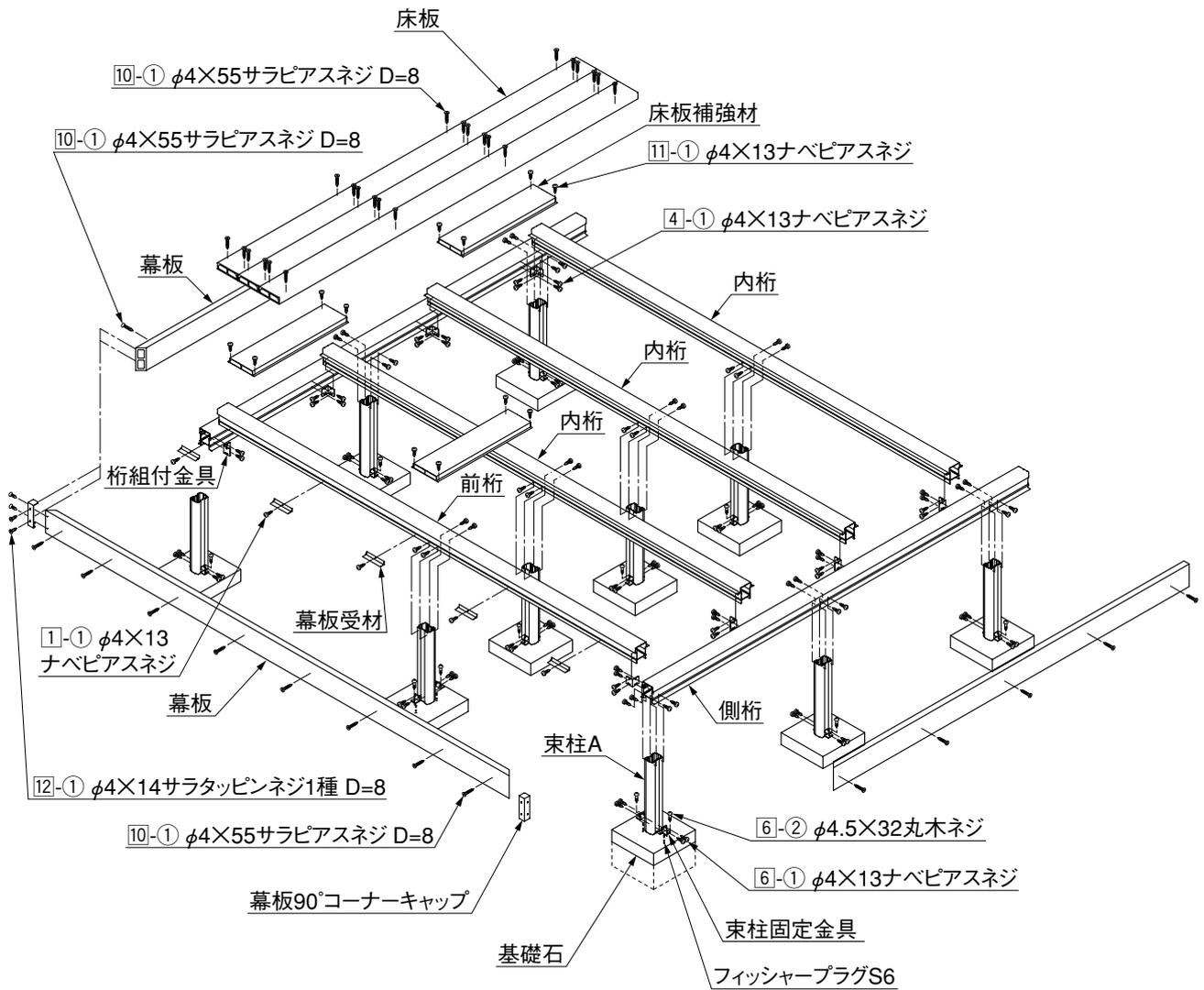


ポイント

- お客様への製品引き渡し前には、施工途中で付いた表面すりキズを手直ししてください。
- 材料表面を補修する際は、事前の研磨方向に沿って削ってください。

2 全体構成

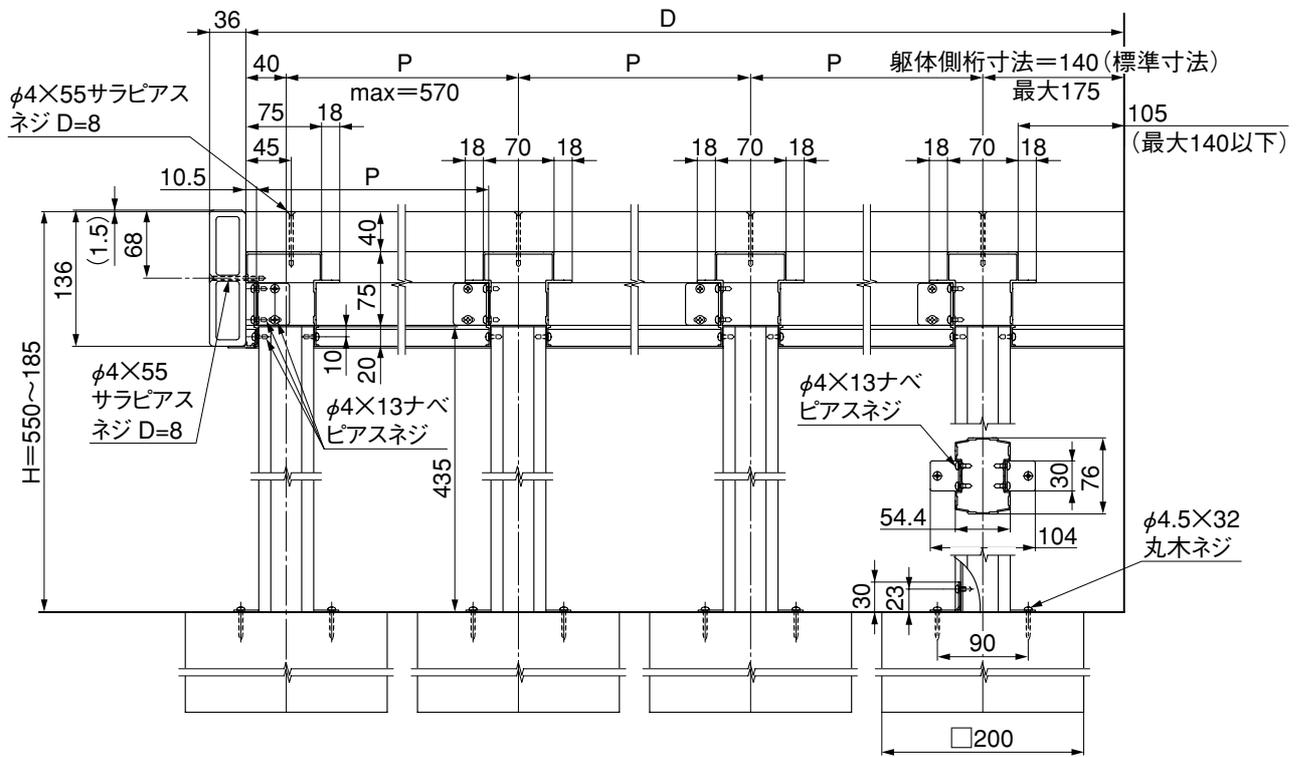
1. 構造概略説明



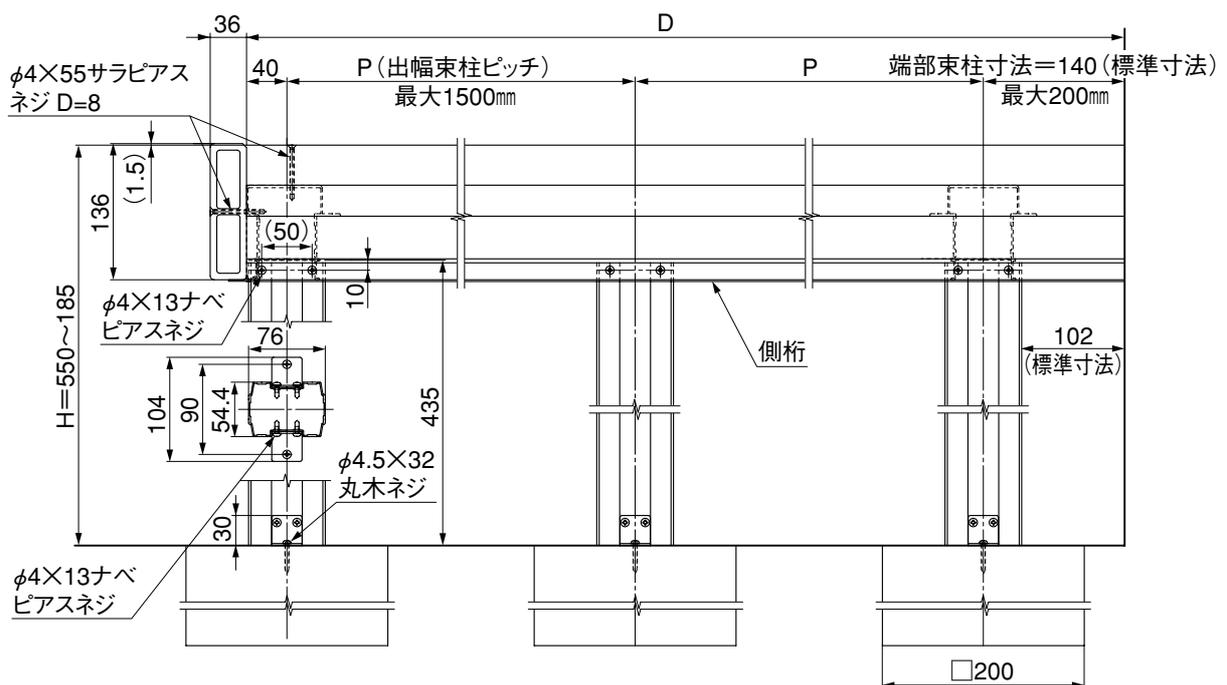
2. 納まり図

2-1 出幅納まり ※各組付ネジの梱包先は、梱包明細表および「3 本体の施工方法」をご覧ください。

(1) 束柱A仕様 間口桁部納まり

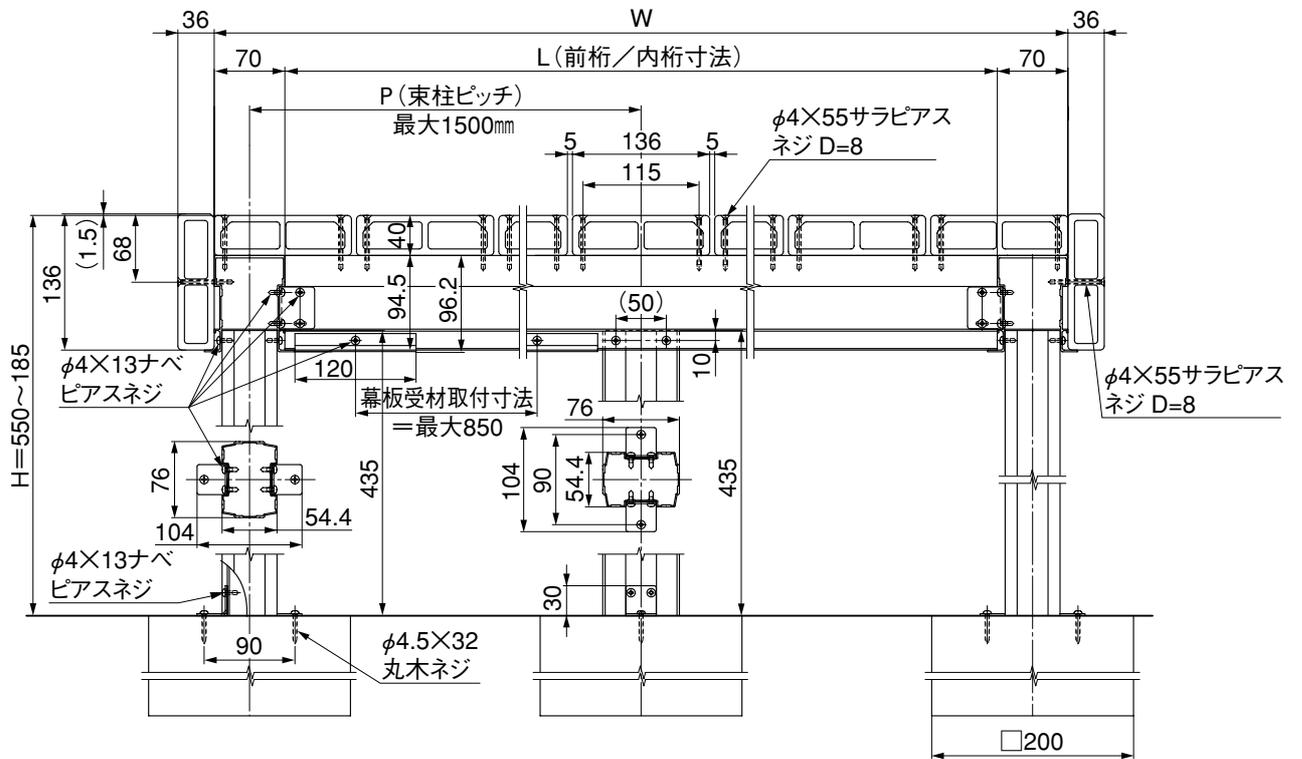


(2) 束柱A仕様 側桁部納まり

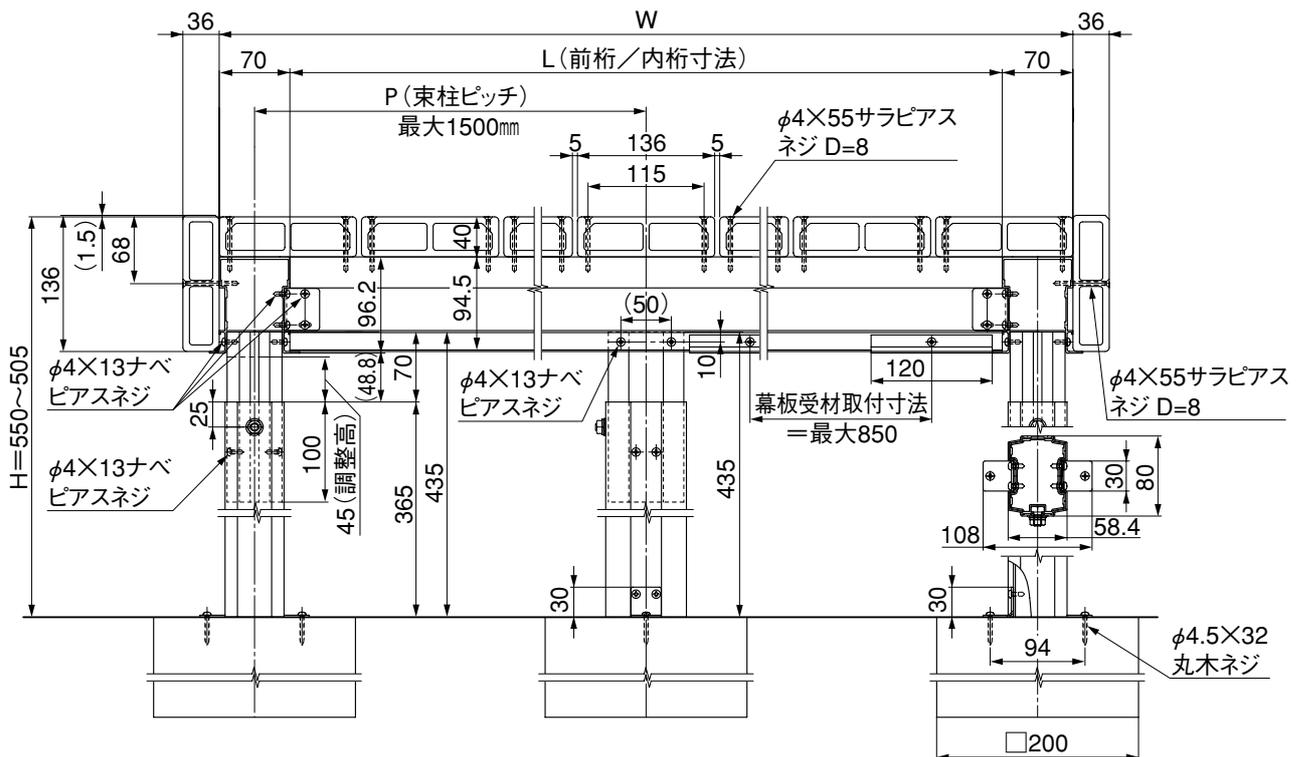


2-2 間口納まり ※各組付ネジの梱包先は、梱包明細表および「3 本体の施工方法」をご覧ください。

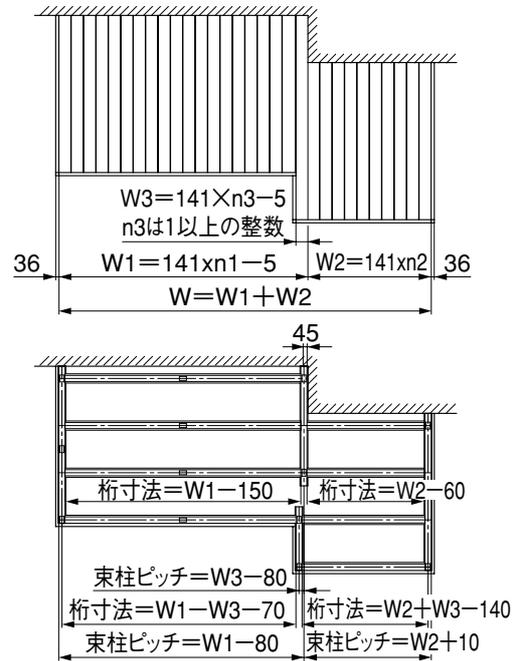
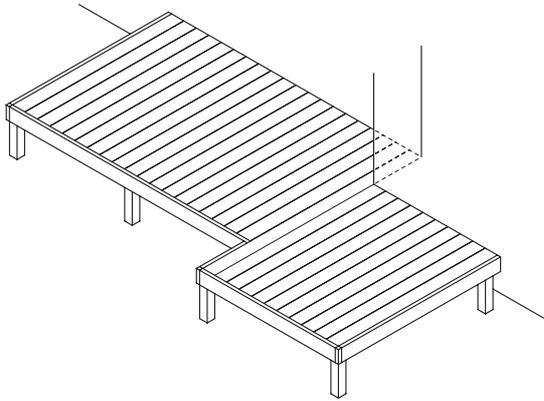
(1) 束柱A仕様



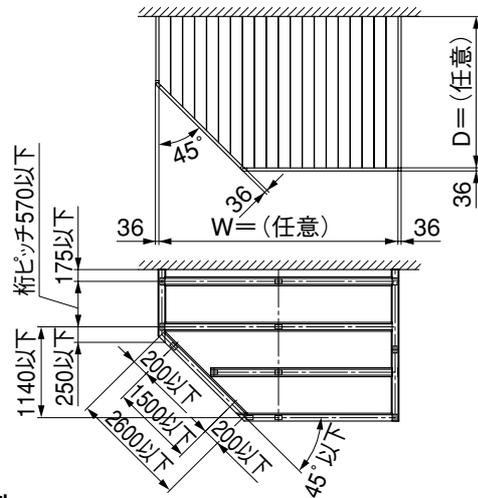
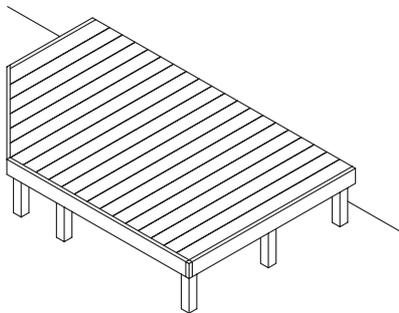
(2) 束柱B仕様



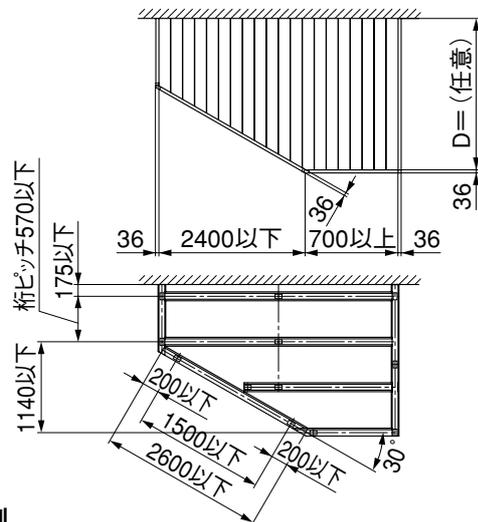
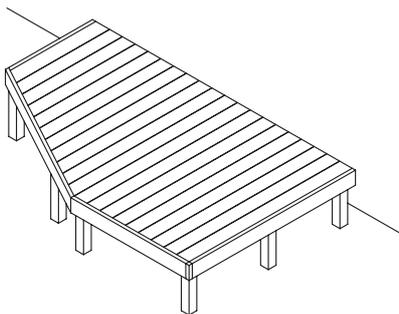
(4) 出幅違い／躯体出隅対応



(5) 角切り対応



45°カット例



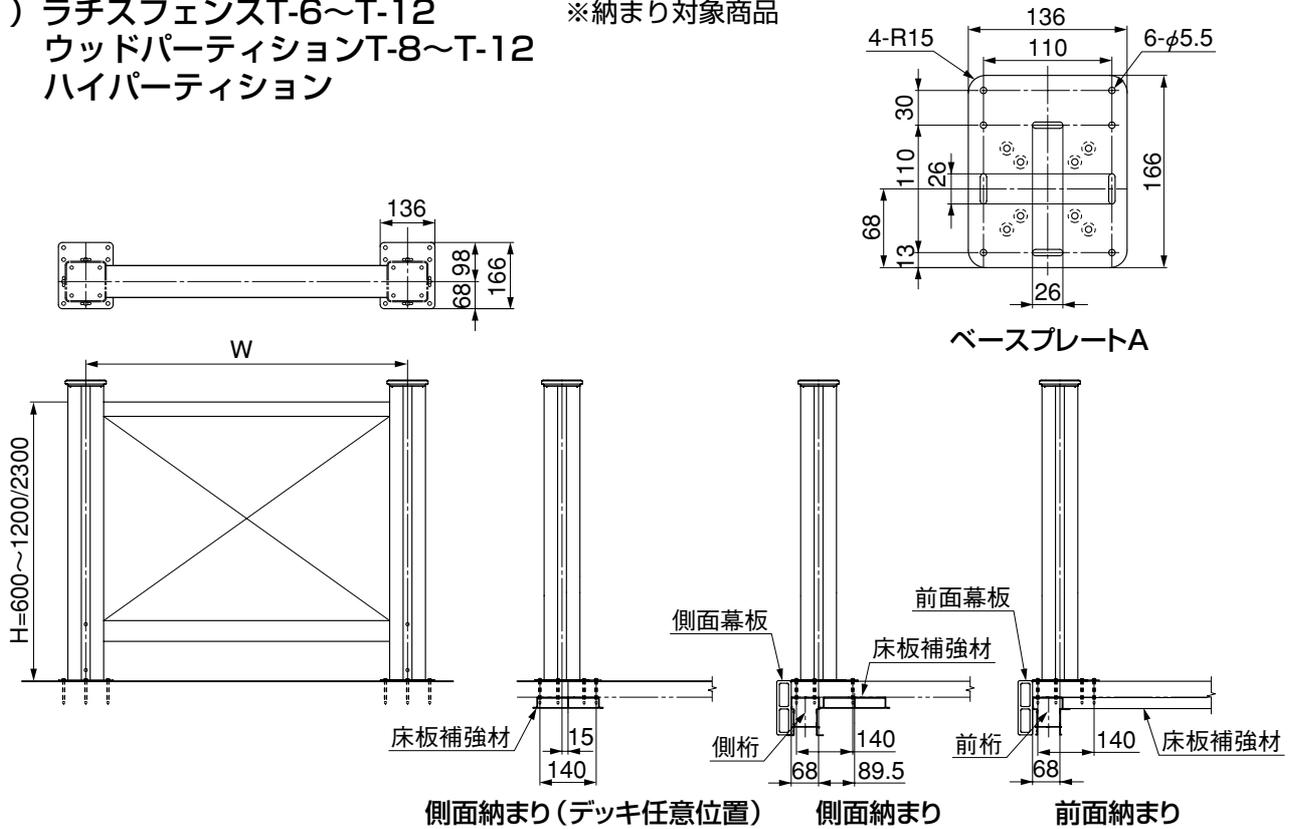
30°カット例

2. つづき

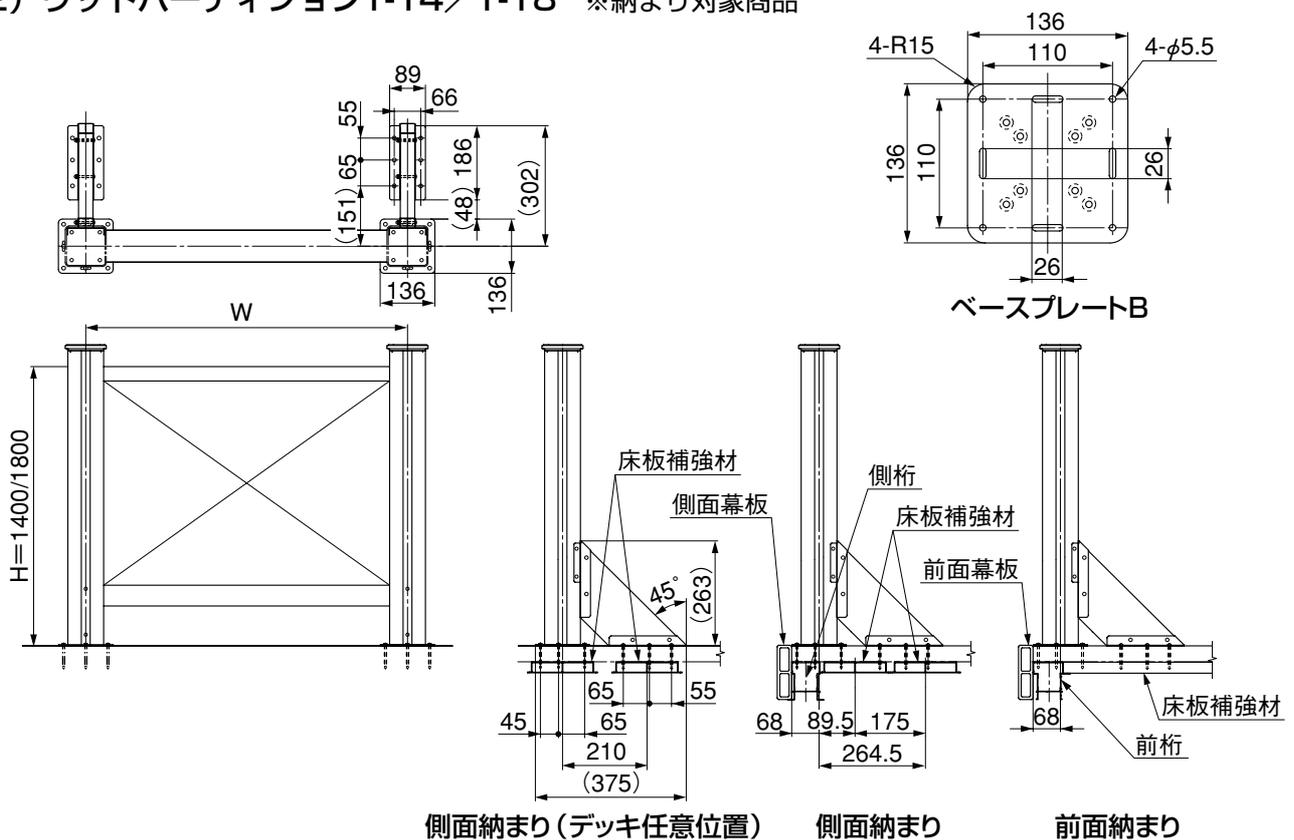
2-4 床板補強材納まり

- (1) ラチスフェンスT-6~T-12
 ウッドパーティションT-8~T-12
 ハイパーパーティション

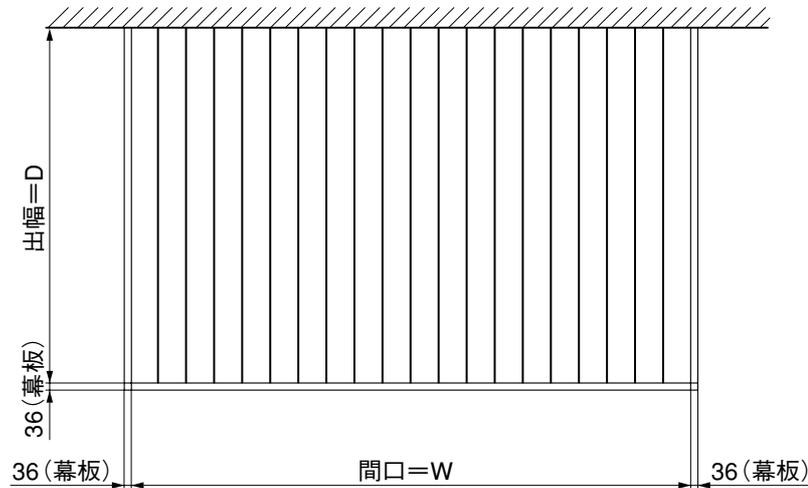
※納まり対象商品



- (2) ウッドパーティションT-14/T-18 ※納まり対象商品



2-5 標準納まりの部材 使用数一覧



デッキサイズ別床板使用枚数

出幅 (D)	間口 (W)	1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
			W=2819 (20列)	W=3665 (26列)	W=4511 (32列)
6尺 (D=1800)		L=1800×20枚	L=1800×26枚	L=1800×32枚	L=1800×39枚
7尺 (D=2100)		L=2100×20枚	L=2100×26枚	L=2100×32枚	L=2100×39枚
8尺 (D=2400)		L=2400×20枚	L=2400×26枚	L=2400×32枚	L=2400×39枚
9尺 (D=2700)		L=2700×20枚	L=2700×26枚	L=2700×32枚	L=2700×39枚
10尺 (D=2900)		L=2900×20枚	L=2900×26枚	L=2900×32枚	L=2900×39枚
12尺 (D=3600)		L=2400×15枚	L=2400×20枚	L=2400×24枚	L=2400×30枚
		L=2700×15枚	L=2700×20枚	L=2700×24枚	L=2700×30枚
15尺 (D=4550)		L=1800×20枚	L=1800×26枚	L=1800×32枚	L=1800×39枚
		L=2700×20枚	L=2700×26枚	L=2700×32枚	L=2700×39枚

出幅 (D)	間口 (W)	3.5間	4.0間	4.5間	5.0間
			W=6344 (45列)	W=7190 (51列)	W=8177 (58列)
6尺 (D=1800)		L=1800×45枚	L=1800×51枚	L=1800×58枚	L=1800×63枚
7尺 (D=2100)		L=2100×45枚	L=2100×51枚	L=2100×58枚	L=2100×63枚
8尺 (D=2400)		L=2400×45枚	L=2400×51枚	L=2400×58枚	L=2400×63枚
9尺 (D=2700)		L=2700×45枚	L=2700×51枚	L=2700×58枚	L=2700×63枚
10尺 (D=2900)		L=2900×45枚	L=2900×51枚	L=2900×58枚	L=2900×63枚
12尺 (D=3600)		L=2400×34枚	L=2400×39枚	L=2400×44枚	L=2400×48枚
		L=2700×34枚	L=2700×39枚	L=2700×44枚	L=2700×48枚
15尺 (D=4550)		L=1800×45枚	L=1800×51枚	L=1800×58枚	L=1800×63枚
		L=2700×45枚	L=2700×51枚	L=2700×58枚	L=2700×63枚

補足

- 床板は縦貼り仕様です。
- 間口 (W) は、床板外々寸法です。(幕板は含みません)
- 出幅 (D) は、床板延べ長寸法です。(幕板は含みません)
- 出幅12尺・15尺は、床板が継ぎ足しになります。
- 表中の床板寸法は、加工前部材寸法です。

2. つづき

2-5 つづき

デッキ間口サイズ別幕板使用枚数

間口 (W)	1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
		W=2819	W=3665	W=4511
加工前寸法×枚数	L=2950×1枚	L=2150×2枚	L=2450×2枚	L=2950×2枚
現場切断寸法×枚数	L=2891×1枚	L=1869×2枚	L=2292×2枚	L=2785×2枚

間口 (W)	3.5間	4.0間	4.5間	5.0間
		W=6344	W=7190	W=8177
加工前寸法×枚数	L=2150×3枚	L=1850×4枚	L=2750×3枚	L=2450×4枚
現場切断寸法×枚数	L=2116×1枚 L=2150×2枚	L=1781×2枚 L=1850×2枚	L=2750×3枚	L=2200×2枚 L=2277×2枚

補足

- デッキ最大間口寸法は、「W+72」です。
- 間口の両端部の幕板は、45°のカットを含みます。
- 小数点以下の端数は切り捨てています。

デッキ出幅サイズ別幕板使用枚数

出幅 (D)	6尺	7尺	8尺	9尺
		D=1800	D=2100	D=2400
加工前寸法×枚数	L=1850×2枚	L=2150×2枚	L=2450×2枚	L=2750×2枚
現場切断寸法×枚数	L=1836×2枚	L=2136×2枚	L=2436×2枚	L=2736×2枚

出幅 (D)	10尺	12尺	15尺
		D=2900	D=3600
加工前寸法×枚数	L=2950×2枚	L=1850×4枚	L=2450×4枚
現場切断寸法×枚数	L=2936×2枚	L=1850×2枚 L=1786×2枚	L=2225×2枚 L=2261×2枚

補足

- デッキ最大出幅寸法は、「D+36」です。
- 出幅前方端部の幕板は、45°のカットを含みます。
- 小数点以下の端数は切り捨てています。

デッキサイズ基礎部石数

間口 (W) \ 出幅 (D)	1.5間	2.0間	2.5間	3.0間	3.5間	4.0間	4.5間	5.0間
	W=2819	W=3665	W=4511	W=5498	W=6344	W=7190	W=8177	W=8882
6尺 (D=1800)	10	14	14	18	22	22	26	26
7尺 (D=2100)	11	16	16	21	26	26	31	31
8尺 (D=2400)	11	16	16	21	26	26	31	31
9尺 (D=2700)	12	18	18	24	30	30	36	36
10尺 (D=2900)	12	18	18	24	30	30	36	36
12尺 (D=3600)	15	22	22	29	36	36	43	43
15尺 (D=4550)	17	26	26	35	44	44	53	53

補足

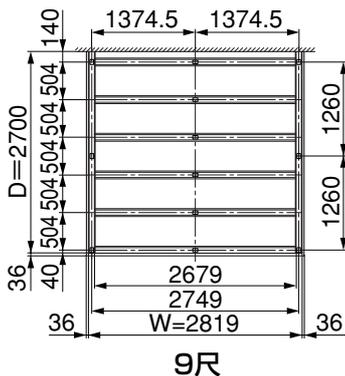
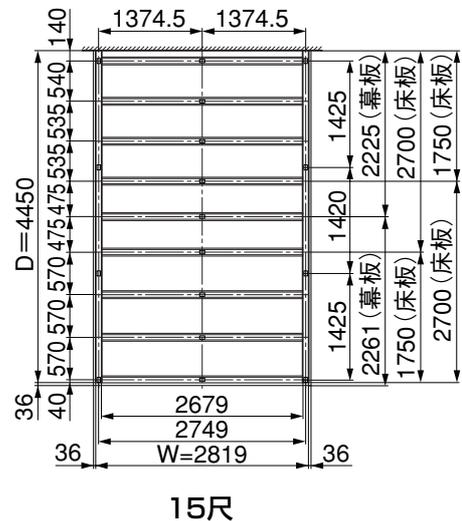
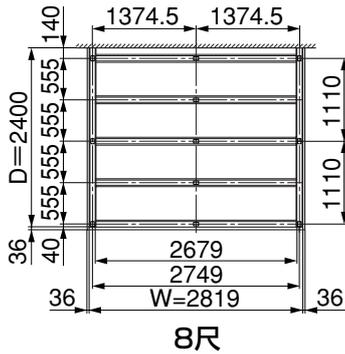
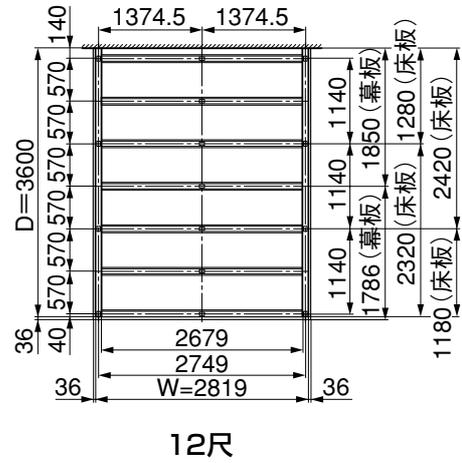
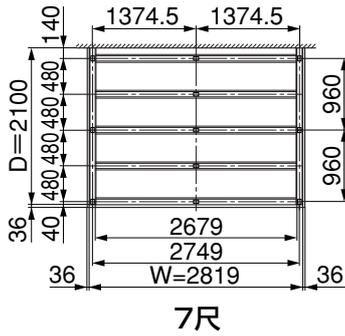
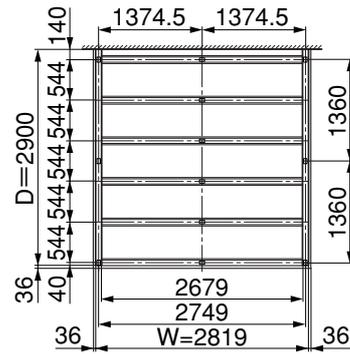
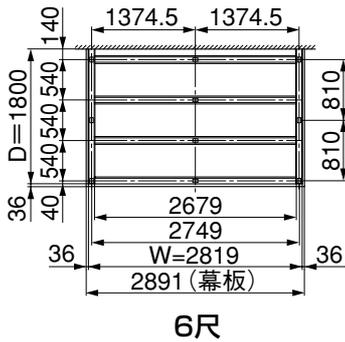
- W200×D200×H200以上の基礎石を現場手配してください。

3. 基礎伏図

3-1 1.5間

ポイント

- 前桁・内桁および側桁の束柱最大芯々寸法は、1500mm以内にしてください。
- 出幅方向の桁最大芯々寸法は、570mm以内にしてください。
- 躯体側床板端部張出し最大寸法は、140mm以内にしてください。(標準は105mmに設定しています)

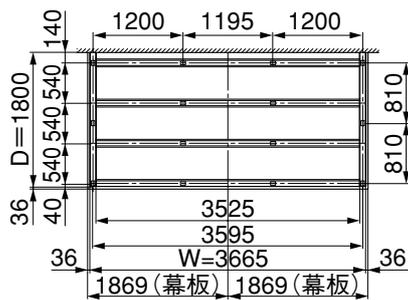


3. つづき

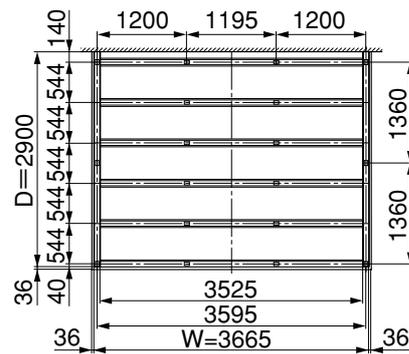
3-2 2.0間

ポイント

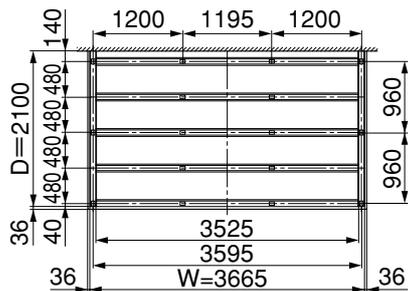
- 前桁・内桁および側桁の束柱最大芯々寸法は、1500mm以内にしてください。
- 出幅方向の桁最大芯々寸法は、570mm以内にしてください。
- 躯体側床板端部張出し最大寸法は、140mm以内にしてください。(標準は105mmに設定しています)



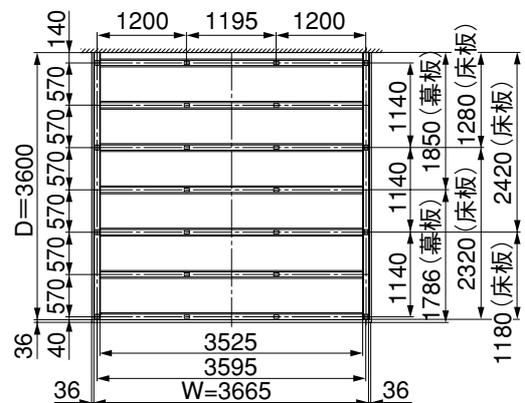
6R



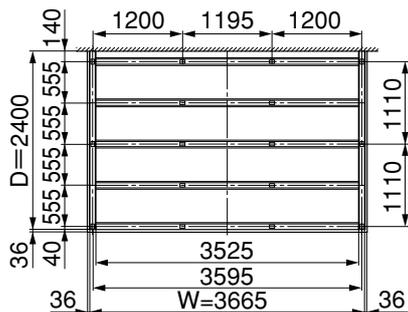
10R



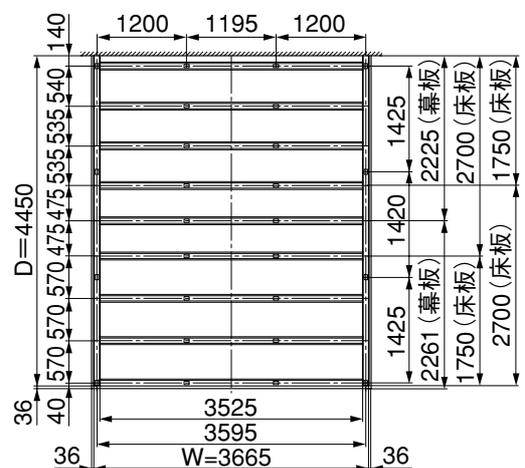
7R



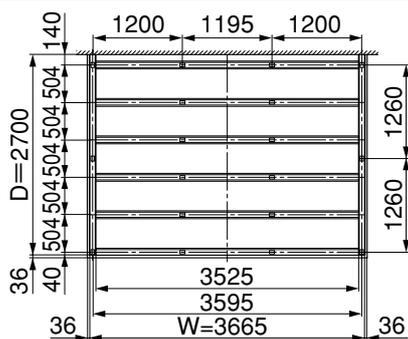
12R



8R



15R

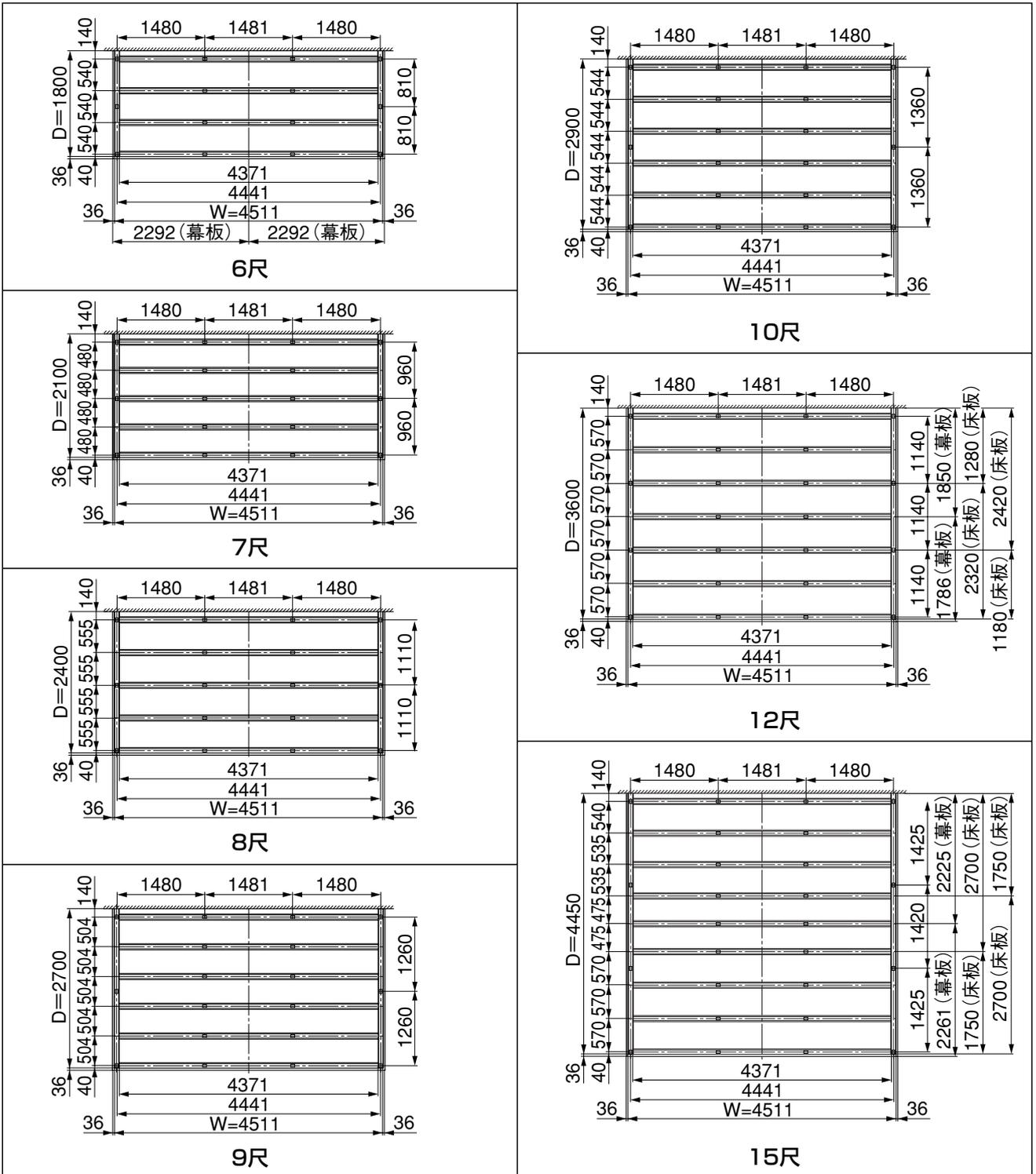


9R

3-3 2.5間

ポイント

- 前桁・内桁および側桁の束柱最大芯々寸法は、1500mm以内にしてください。
- 出幅方向の桁最大芯々寸法は、570mm以内にしてください。
- 躯体側床板端部張出し最大寸法は、140mm以内にしてください。(標準は105mmに設定しています)

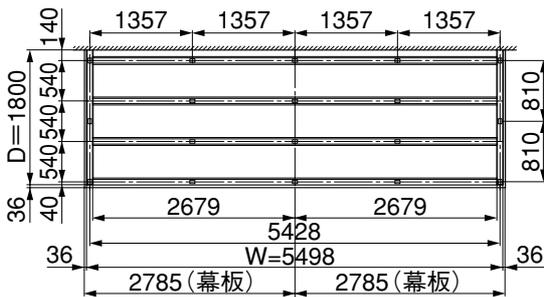


3. つづき

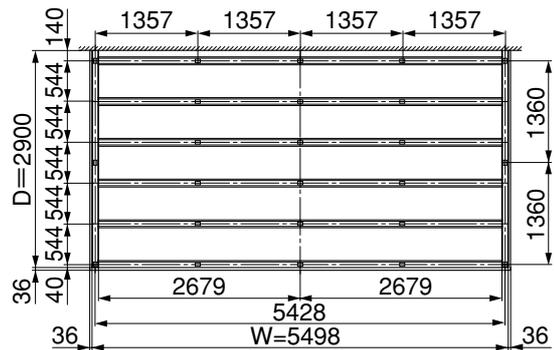
3-4 3.0間

ポイント

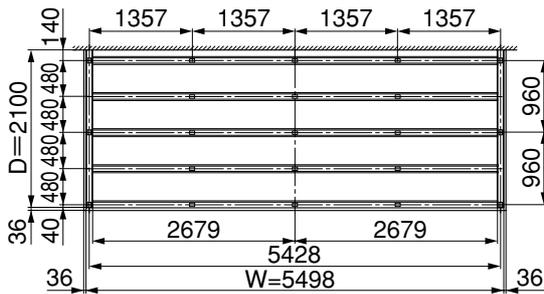
- 前桁・内桁および側桁の束柱最大芯々寸法は、1500mm以内にしてください。
- 出幅方向の桁最大芯々寸法は、570mm以内にしてください。
- 躯体側床板端部張出し最大寸法は、140mm以内にしてください。(標準は105mmに設定しています)



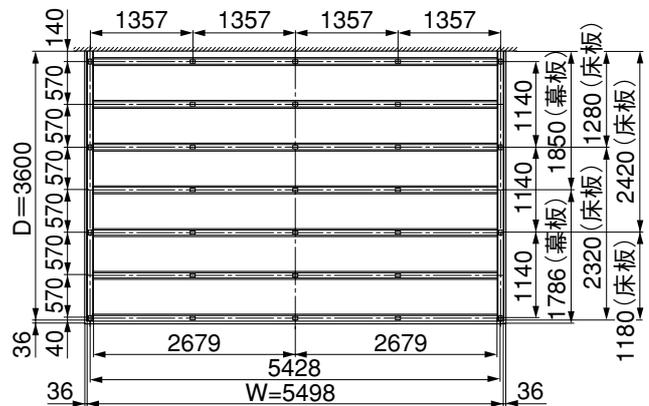
6R



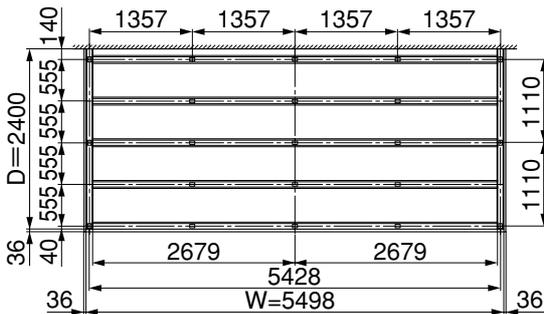
10R



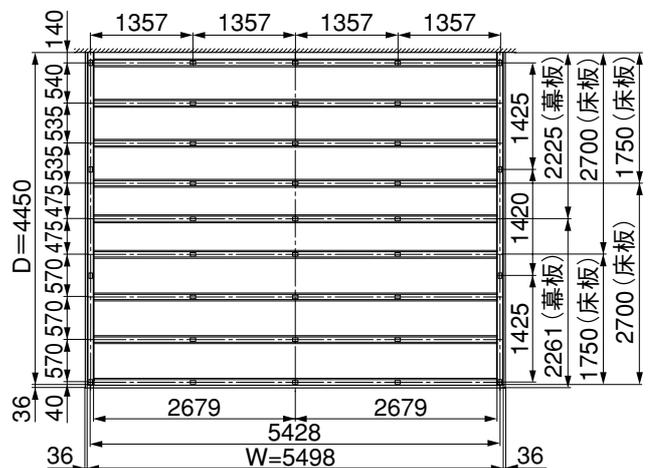
7R



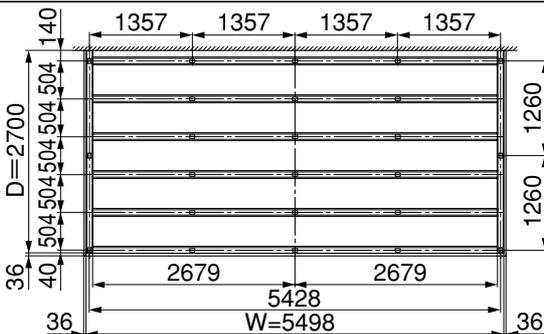
12R



8R



15R

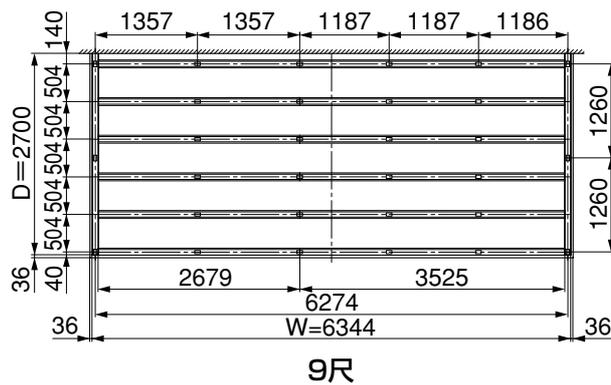
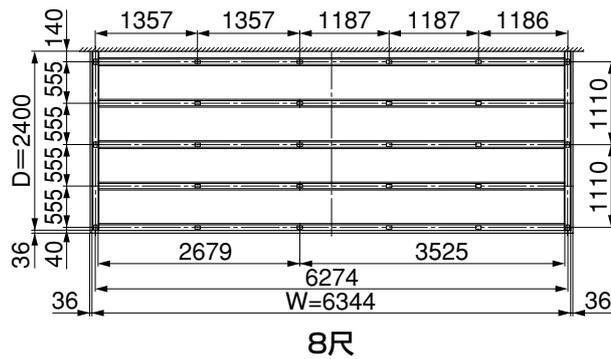
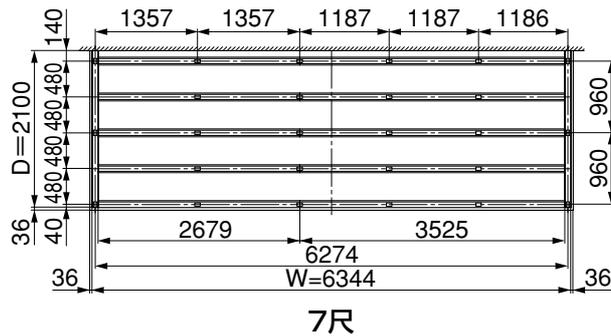
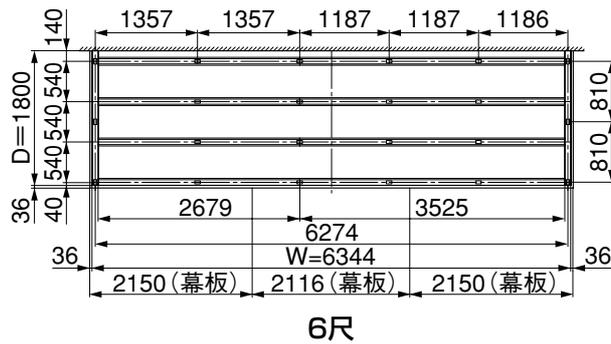


9R

3-5 3.5間

ポイント

- 前桁・内桁および側桁の束柱最大芯々寸法は、1500mm以内にしてください。
- 出幅方向の桁最大芯々寸法は、570mm以内にしてください。
- 躯体側床板端部張出し最大寸法は、140mm以内にしてください。(標準は105mmに設定しています)

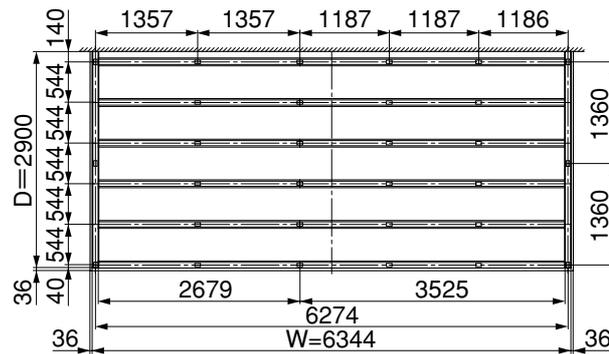


3. つづき

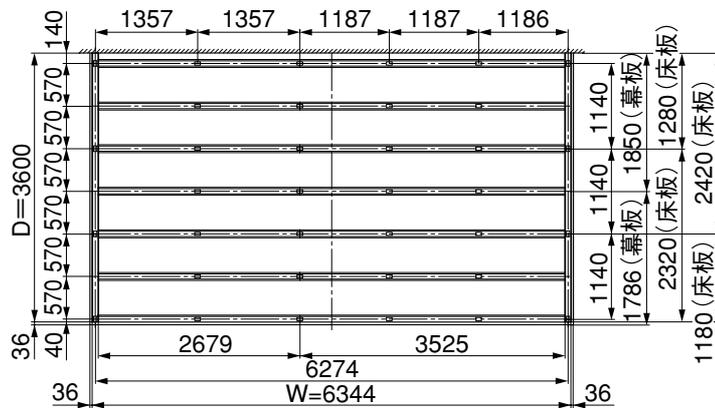
3-5 つづき

ポイント

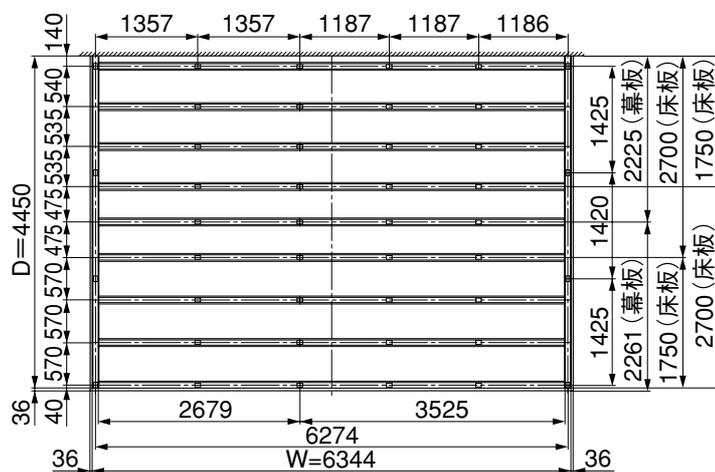
- 前桁・内桁および側桁の束柱最大芯々寸法は、1500mm以内にしてください。
- 出幅方向の桁最大芯々寸法は、570mm以内にしてください。
- 躯体側床板端部張出し最大寸法は、140mm以内にしてください。(標準は105mmに設定しています)



10尺



12尺

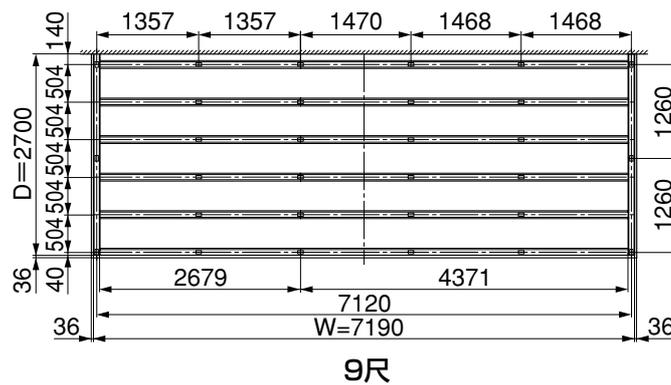
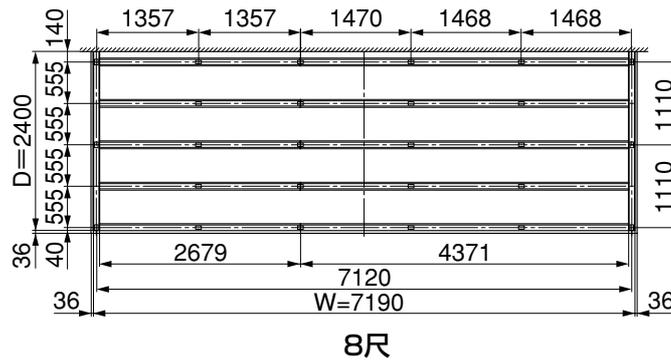
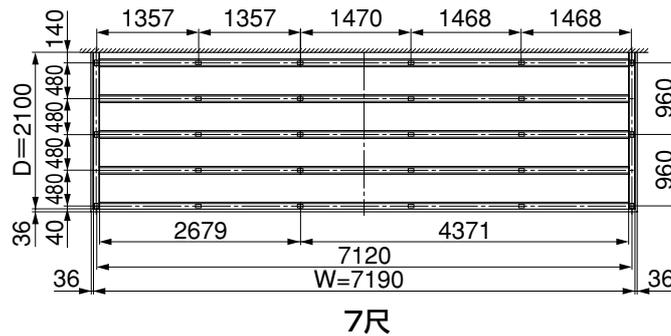
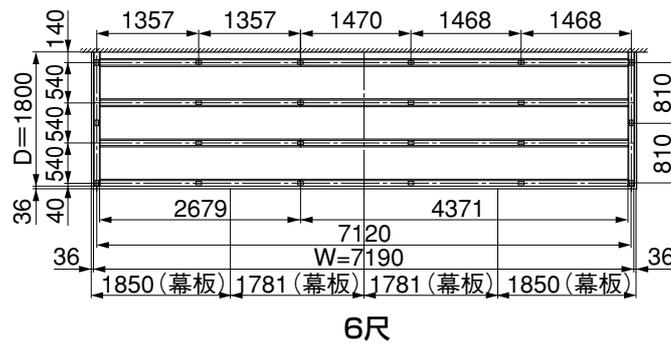


15尺

3-6 4.0間

ポイント

- 前桁・内桁および側桁の束柱最大芯々寸法は、1500mm以内にしてください。
- 出幅方向の桁最大芯々寸法は、570mm以内にしてください。
- 躯体側床板端部張出し最大寸法は、140mm以内にしてください。(標準は105mmに設定しています)

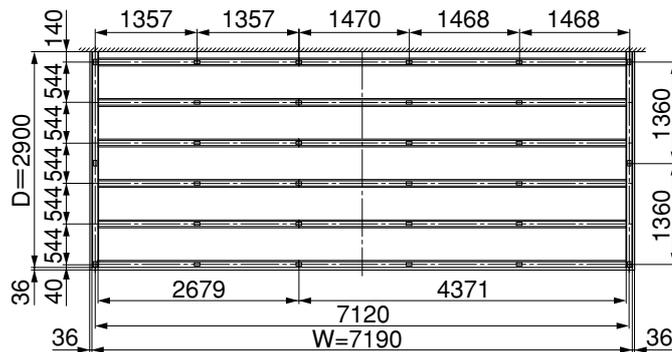


3. つづき

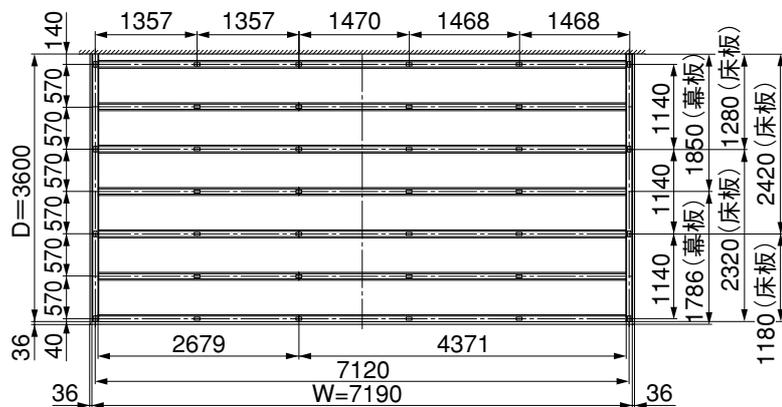
3-6 つづき

ポイント

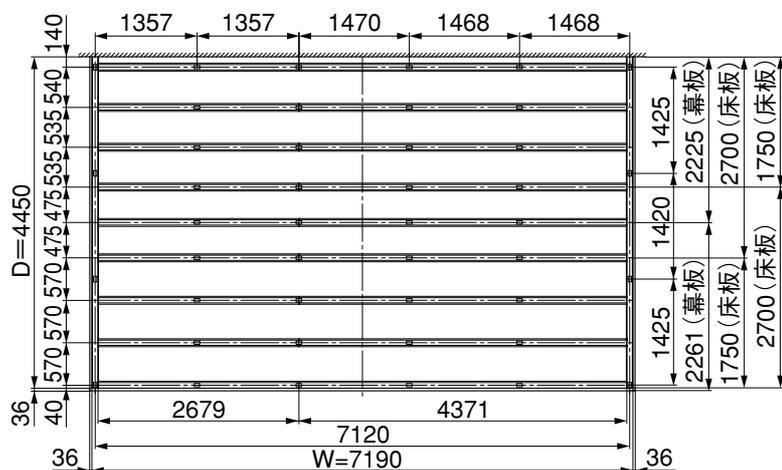
- 前桁・内桁および側桁の束柱最大芯々寸法は、1500mm以内にしてください。
- 出幅方向の桁最大芯々寸法は、570mm以内にしてください。
- 躯体側床板端部張出し最大寸法は、140mm以内にしてください。(標準は105mmに設定しています)



10尺



12尺

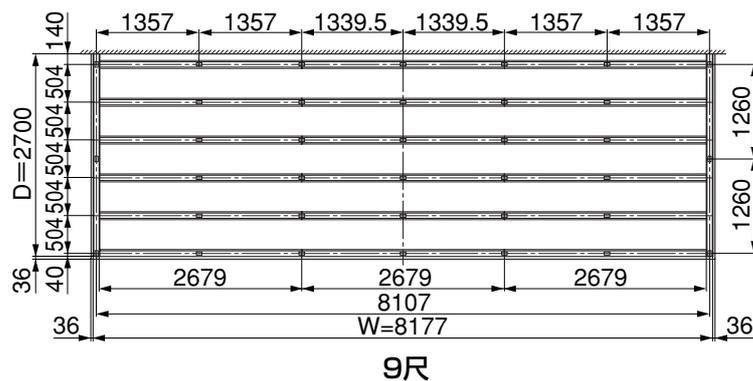
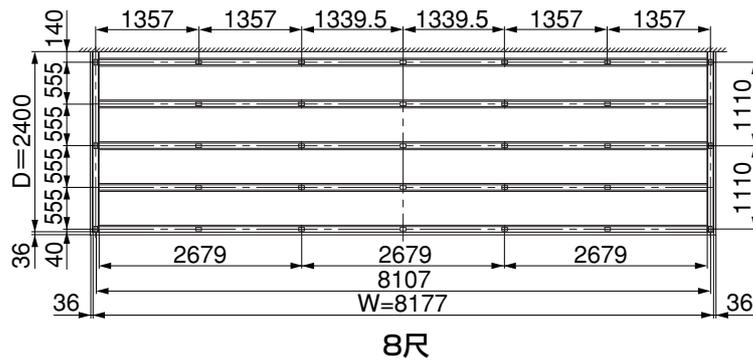
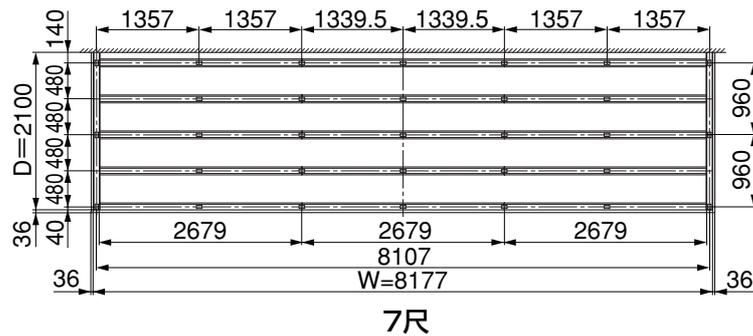
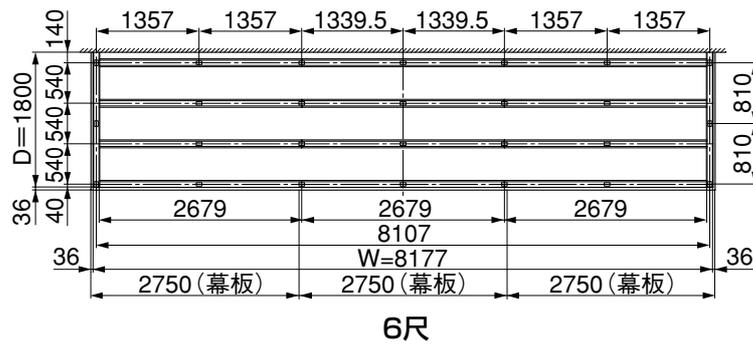


15尺

3-7 4.5間

ポイント

- 前桁・内桁および側桁の束柱最大芯々寸法は、1500mm以内にしてください。
- 出幅方向の桁最大芯々寸法は、570mm以内にしてください。
- 躯体側床板端部張出し最大寸法は、140mm以内にしてください。(標準は105mmに設定しています)

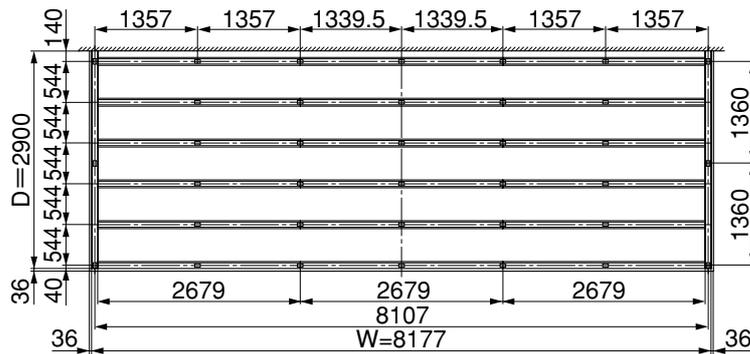


3. つづき

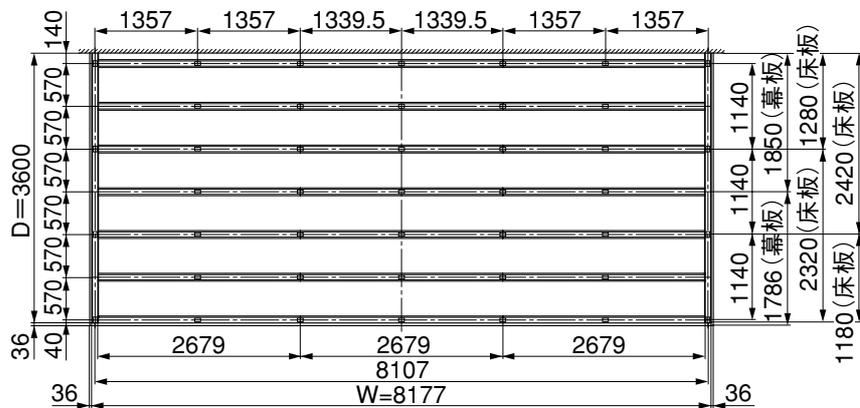
3-7 つづき

ポイント

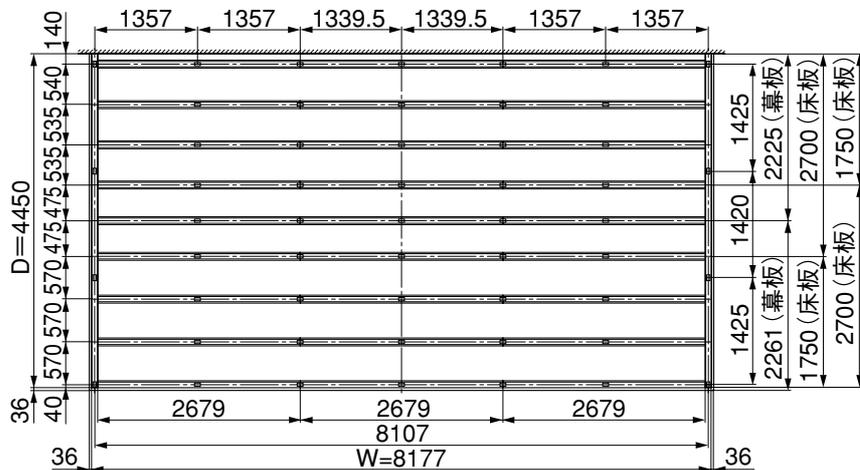
- 前桁・内桁および側桁の束柱最大芯々寸法は、1500mm以内にしてください。
- 出幅方向の桁最大芯々寸法は、570mm以内にしてください。
- 躯体側床板端部張出し最大寸法は、140mm以内にしてください。(標準は105mmに設定しています)



10尺



12尺

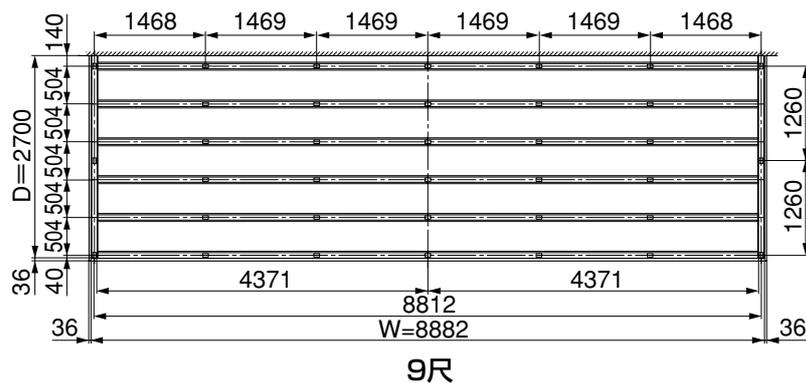
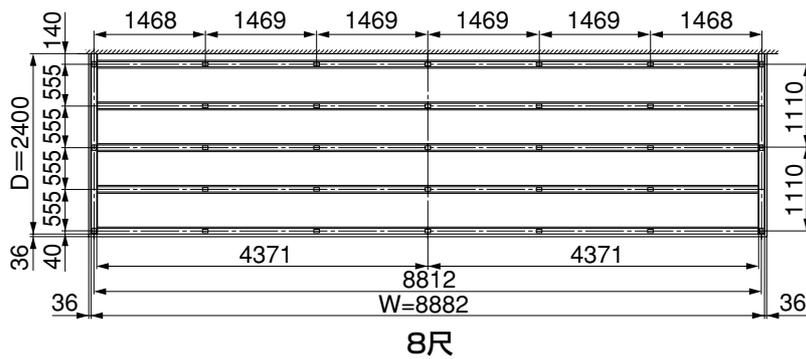
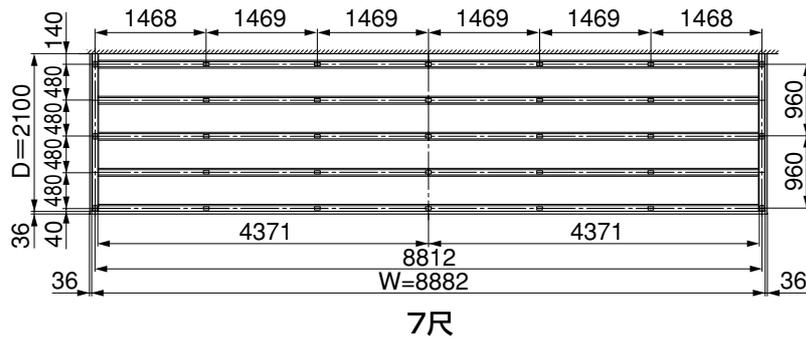
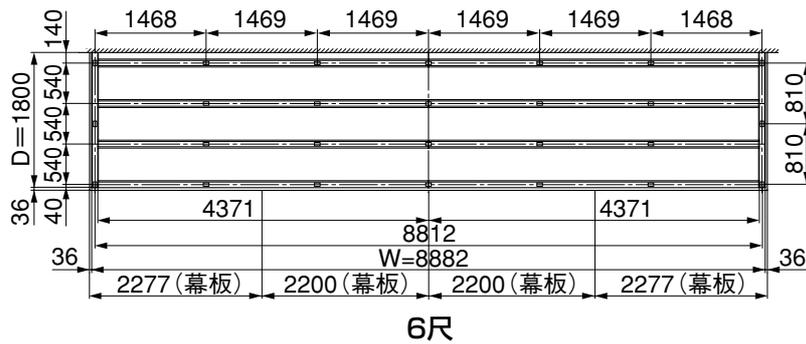


15尺

3-8 5.0間

ポイント

- 前桁・内桁および側桁の束柱最大芯々寸法は、1500mm以内にしてください。
- 出幅方向の桁最大芯々寸法は、570mm以内にしてください。
- 躯体側床板端部張出し最大寸法は、140mm以内にしてください。(標準は105mmに設定しています)

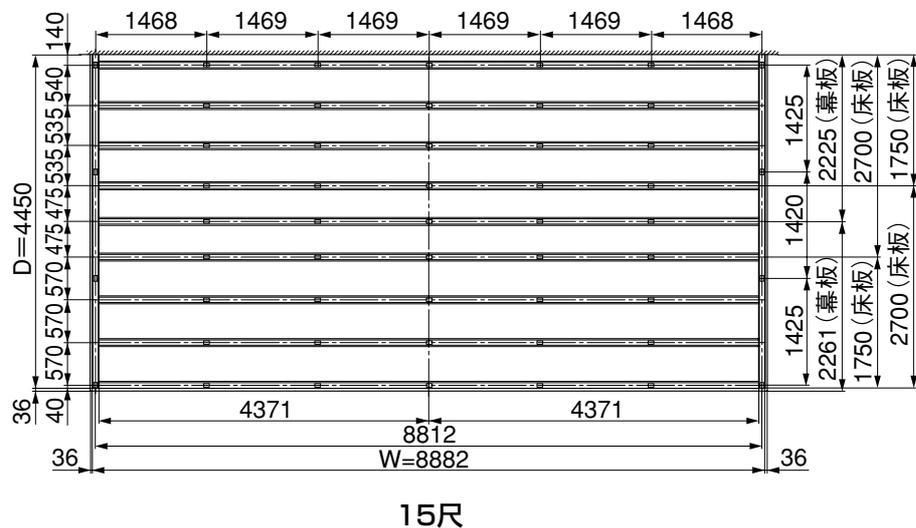
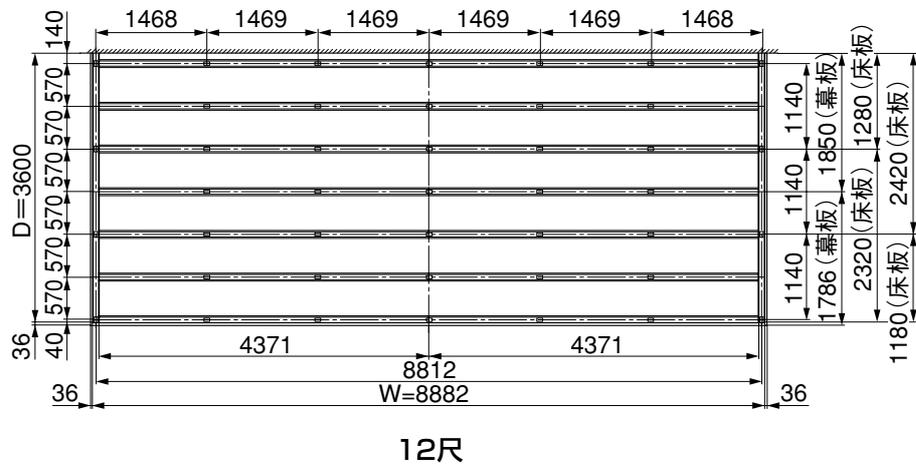
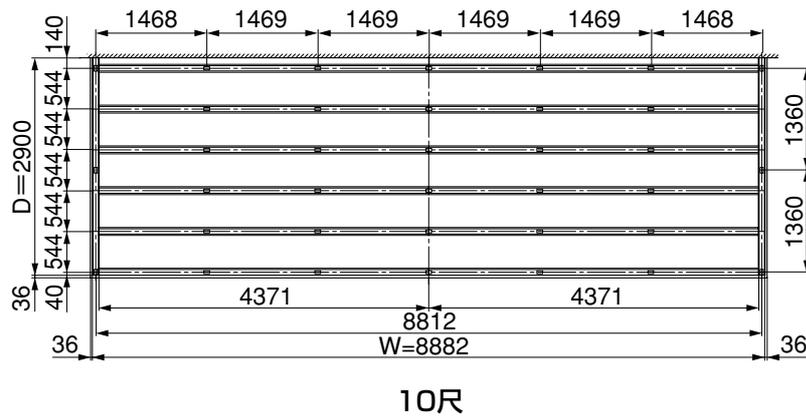


3. つづき

3-8 つづき

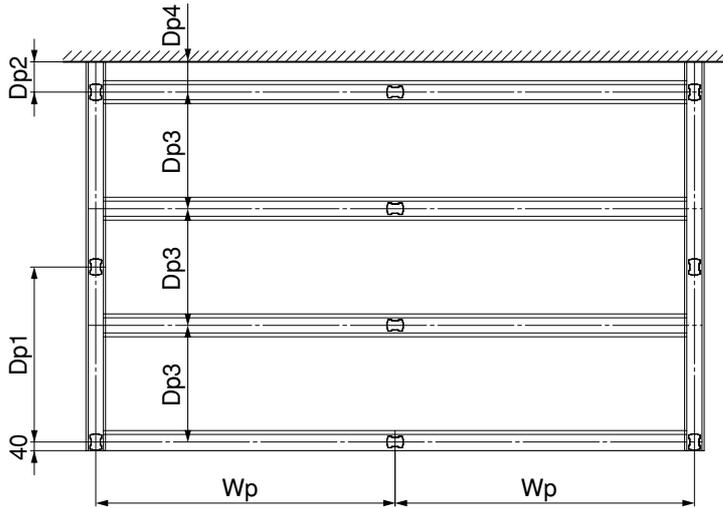
ポイント

- 前桁・内桁および側桁の束柱最大芯々寸法は、1500mm以内にしてください。
- 出幅方向の桁最大芯々寸法は、570mm以内にしてください。
- 躯体側床板端部張出し最大寸法は、140mm以内にしてください。(標準は105mmに設定しています)



3 本体の施工方法

1. 基礎の位置出し



① 躯体側から基礎の墨出しを行なってください。

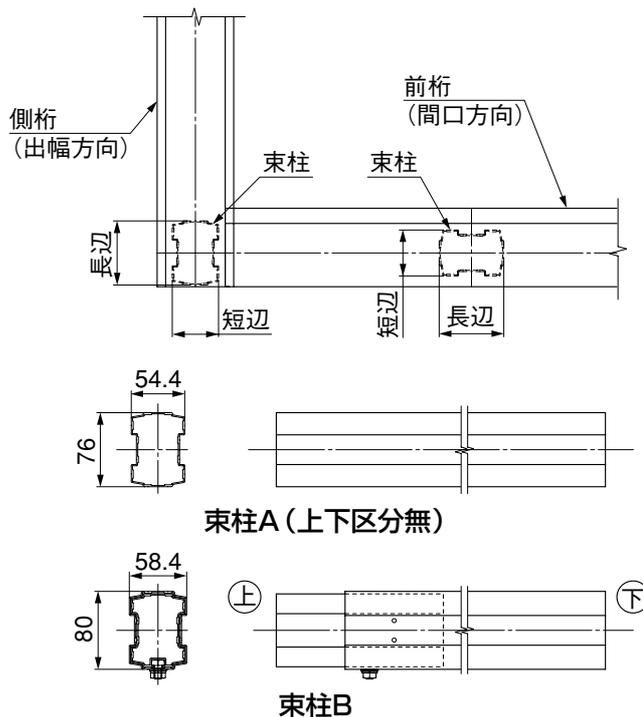
ポイント

- 施主様とあらかじめ、最終納まりプランを確認してください。
(「2 全体構成 3.基礎伏図」参照)
- 桁材はあらかじめ切断しています。
- 間口寸法を切詰める場合の計算式
・ 桁切詰め寸法 (mm)
= 床板ピッチ141mm (床幅136mm + 目地5mm) × n (床板枚数)

注意

- Wp (間口束ピッチ) は、1500mm以内にしてください。
- Dp1 (出幅束ピッチ) は、1500mm以内にしてください。
- Dp2 (出幅束ピッチ / 端部) は、200mm以内にしてください。
- Dp3 (桁ピッチ) は、570mm以内にしてください。
- Dp4 (桁ピッチ / 端部) は、175mm以内にしてください。

2. 基礎の設置



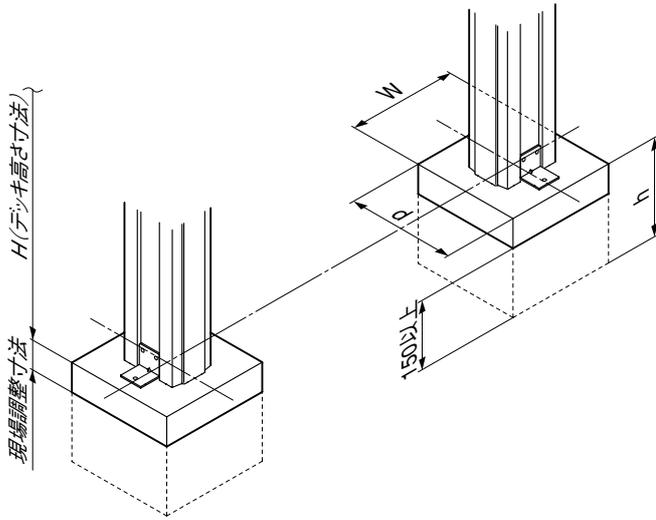
注意

- 基礎石は、 $w=200 \times d=200 \times h=200$ mm以上のものを使用してください。
- 基礎石は、150mm以上を埋込んでください。
- 基礎石は、そのまわりをコンクリート (あるいはモルタル) で固めてください。基礎石は、上面に束柱固定用プラグの固定ができるものを準備してください。

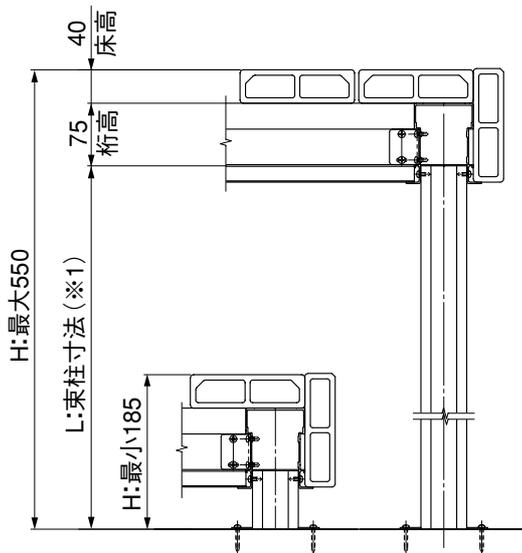
補足

- 束柱の取付方向が、前桁・内桁と側桁の場合で異なります。
- 束柱の断面形状寸法は、柱仕様によって異なります。
- デッキ仕上がりH寸法は、基礎石の地上飛び出し分を除いて表示しています。

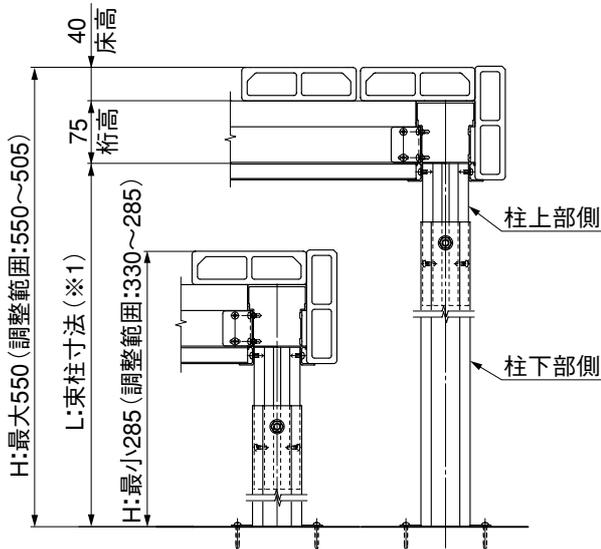
2. つづき



- ① 基礎石を墨出し位置に置き、天面の水平を確認した上で固定してください。



束柱A仕様



束柱B仕様

- ② 束柱の寸法は、次の式で算出してください。(※1)

束柱寸法の算出式

L:束柱寸法、 α :基礎石の飛び出し高さ

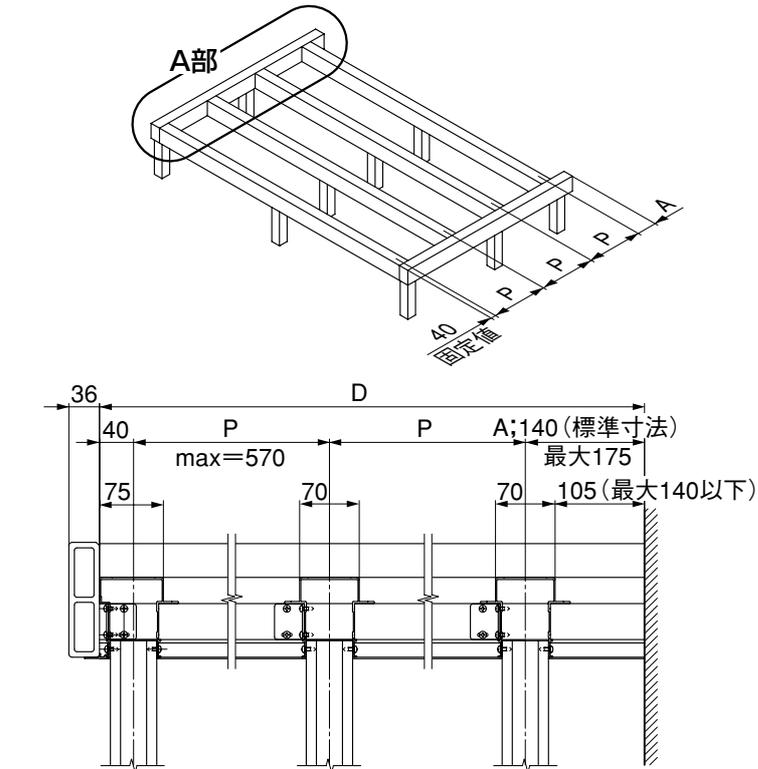
$$L=H-115-\alpha$$

補足

- 束柱Bは高さ調整式で、調整寸法は45mmです。
- 束柱Bの切断は、柱下部側の下面方向より行なってください。

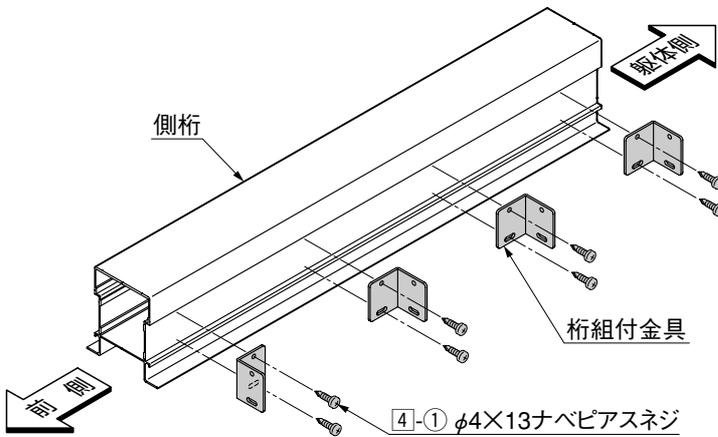
柱種類	束柱の最大切詰寸法	デッキ最低H寸法
束柱A	365	185
束柱B	220	285

3. 側桁と桁組付金具の組付け

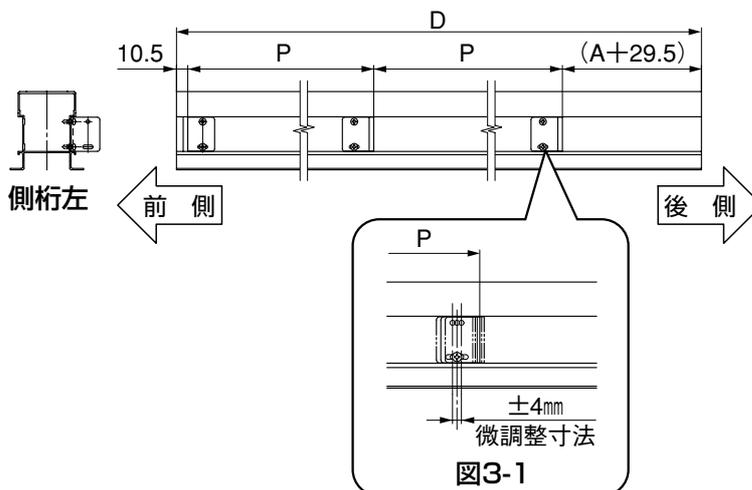


ポイント

- 躯体寄り桁ピッチは、標準で140mmにしています。移動する場合は、最大175mm以下にしてください。



A部詳細図



注意

- 側桁先端部の10.5mmは、正確に出してください。
- 桁組付金具の取付け向きが、側桁先端部とその他の部分では逆になります。

- 1 桁組付金具を側桁先端より、位置出ししてください。
- 2 桁組付金具を4-1で固定してください。

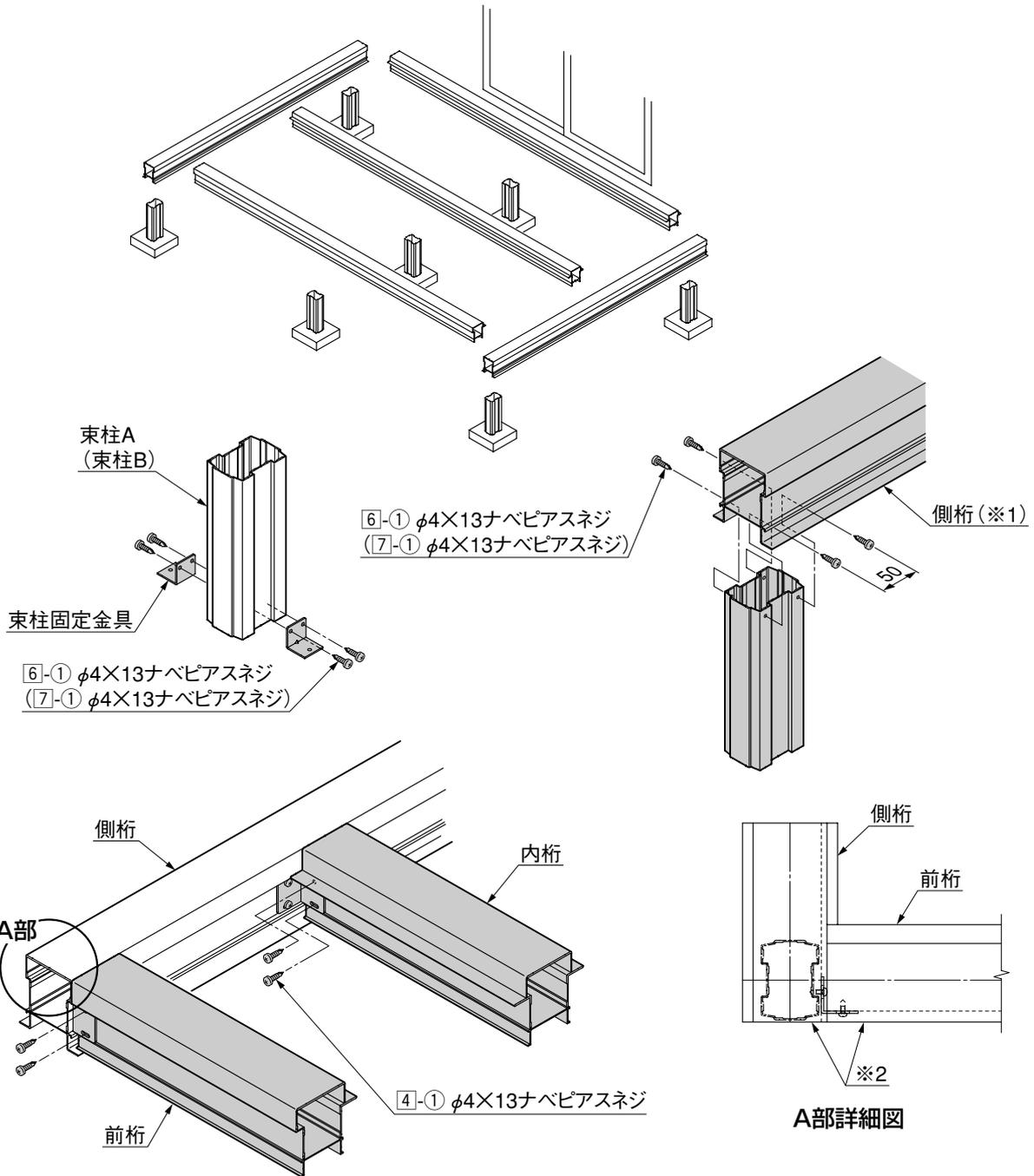
補足

- 桁組付金具の下側止め孔は長孔になっています。(図3-1参照)

4. 桁・束柱の固定

※束柱AとBで同様の取付け方をする場合は、束柱Aで説明しています。
()内は束柱Bの場合です。

4-1 桁と束柱の固定



- ❶ 束柱に束柱固定金具を、6-1 (7-1) で固定してください。
- ❷ 側桁と束柱を、6-1 (7-1) で固定してください。
- ❸ 側桁の内々に前桁・内桁を入れ、4-1 で固定してください。

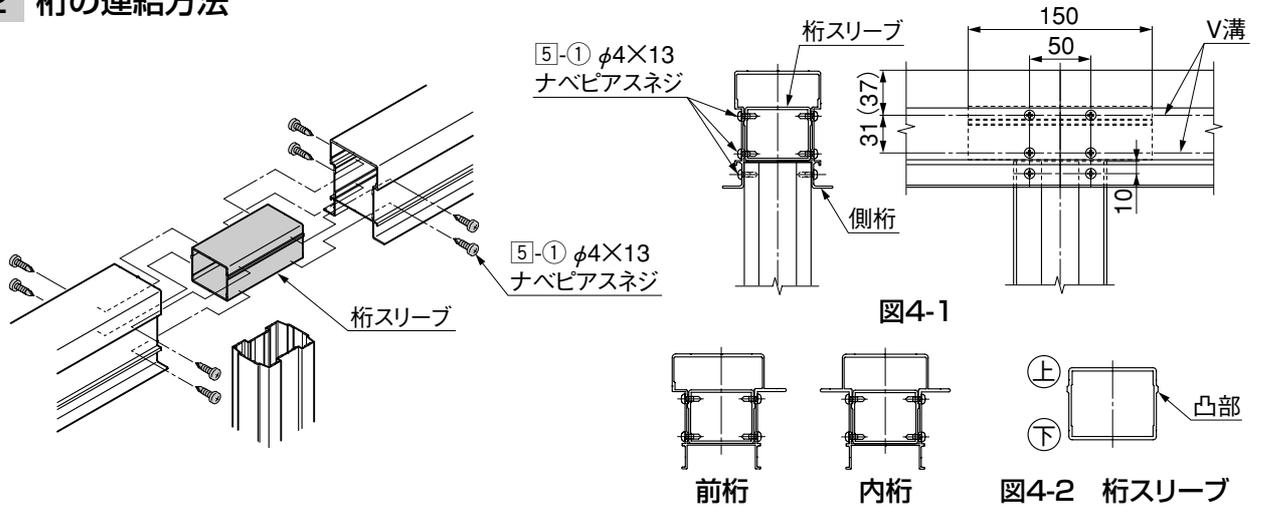
⚠ 注意

- 側桁先端部と前桁の前面が一致するように組付けてください。(※2)

✎ 補足

- 前桁と内桁の場合も共通です。(※1)

4-2 桁の連結方法

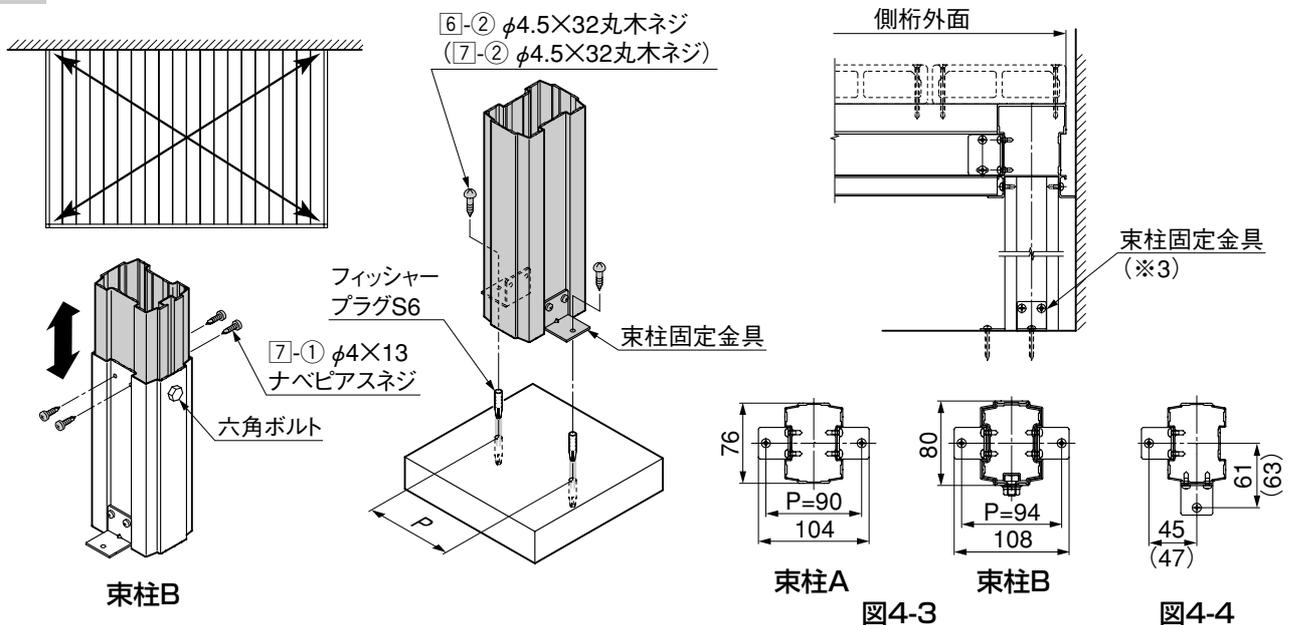


⚠ 注意

- 桁の連結部は、柱の中央上部で突き合わせて固定してください。(図4-1参照)
- 桁スリーブ材の上下を確認し、組付けてください。(図4-2参照)

① 桁スリーブを桁に挿入し、**5-1**で固定してください。

4-3 束柱の固定



- ① デッキの対角寸法を確認してください。
- ② 束柱B仕様の場合、束柱の高さを確認した上で**7-1**で固定してください。
- ③ 基礎石に束柱固定用のフィッシャープラグS6を固定してください。

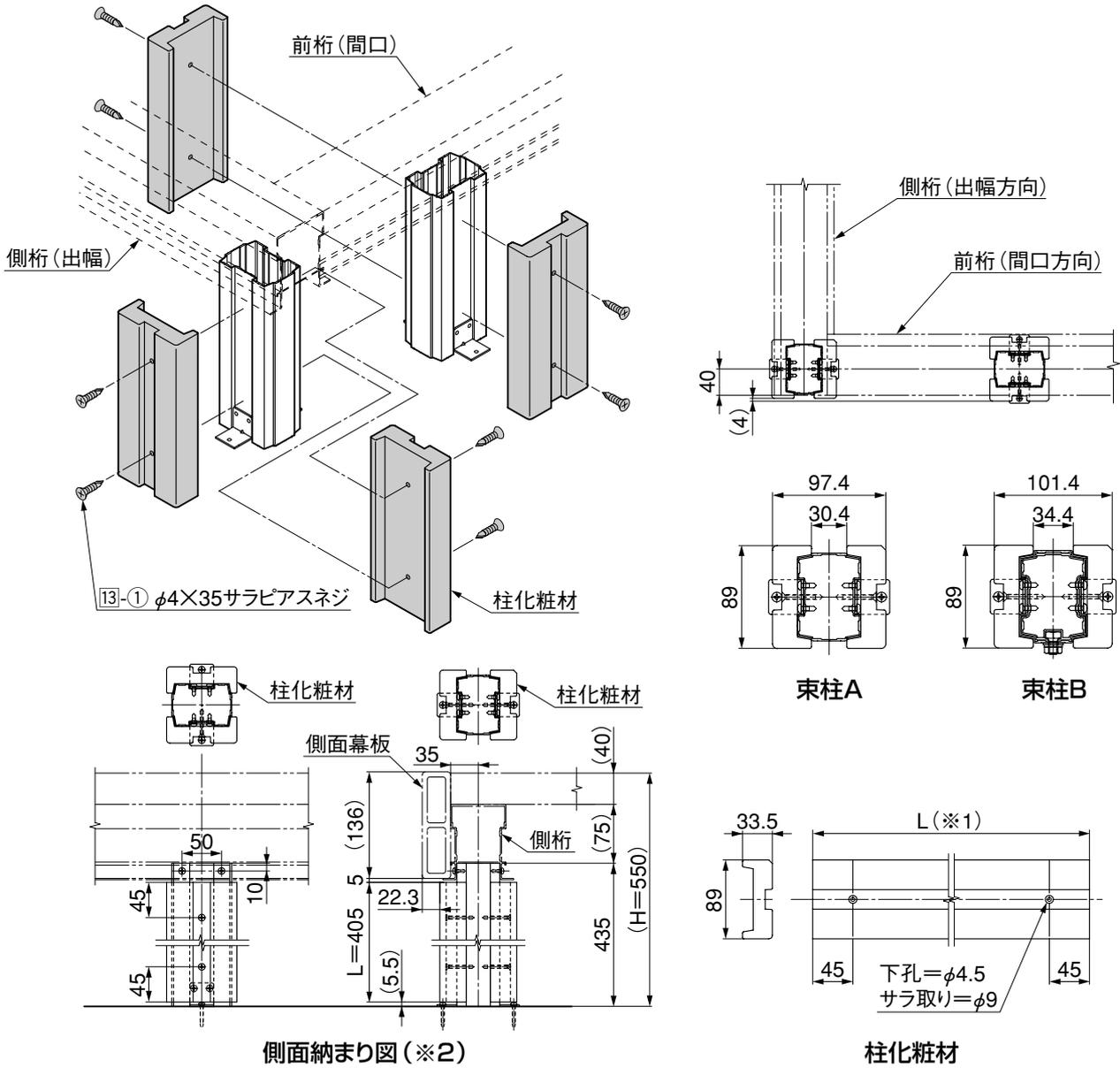
🔧 補足

- プラグ用の下孔は、 $\phi 6 \times$ 深さ30mmです。
- 束柱AとBとでは固定用の孔ピッチが異なります。(図4-3参照)
- 束柱の固定用ネジが打てない場合(躯体あるいは障害物がある等)は、90°逆の側面で固定してください。(図4-4参照)(※3)

5. 柱化粧材の取付け

補足

- 出幅方向と間口方向では、束柱に付ける束化粧材の納まり方向が異なります。
- 束柱Aと束柱Bとは、束化粧材取付け後の外形寸法が異なります。



- 1 柱化粧材を柱寸法に合わせて切断してください。

補足

- $L(\text{化粧材寸法}) = (\text{柱長さ}) - 30\text{mm}$ です。
- L が150mm以下の場合は、ネジ一点止めが可能です。(※1)
- 側面納まり図は、束柱Aを示します。(※2)

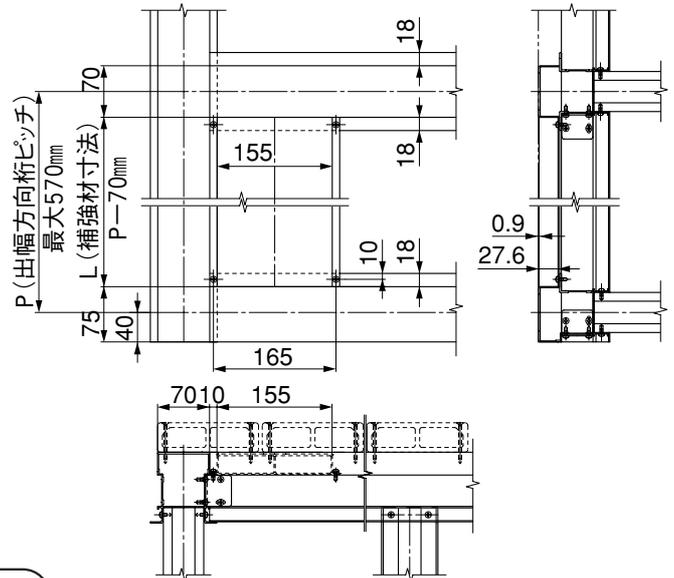
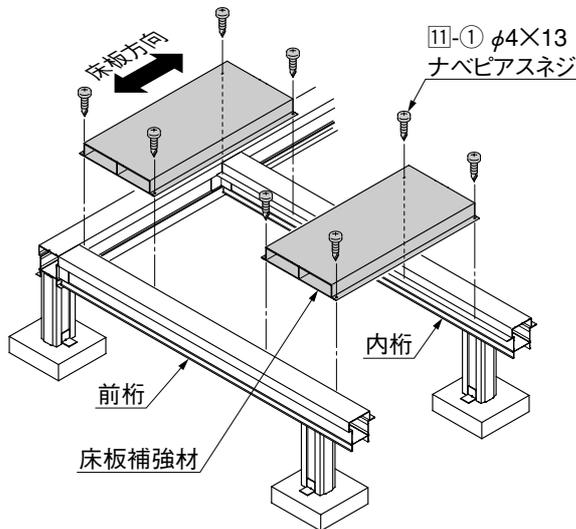
- 2 凹部にφ4.5下孔とサラ取り加工をしてください。

- 3 13-①で固定してください。

6. 床板補強材の組付け

※デッキ上にフェンス類・エクシオール本体を取付けない場合は、「7.床板の組付け」へお進みください。

6-1 床板補強材の納まり



床板補強材納まり図

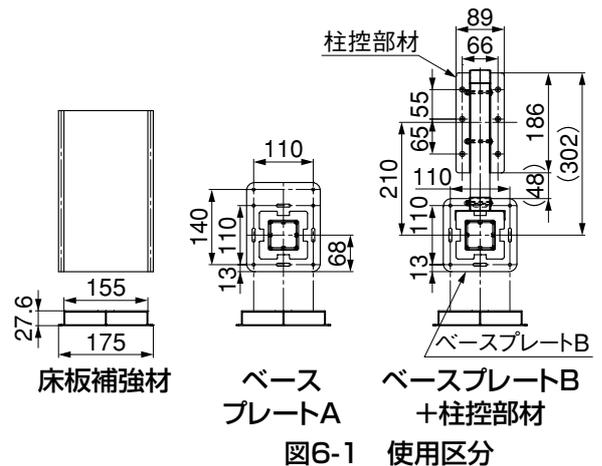
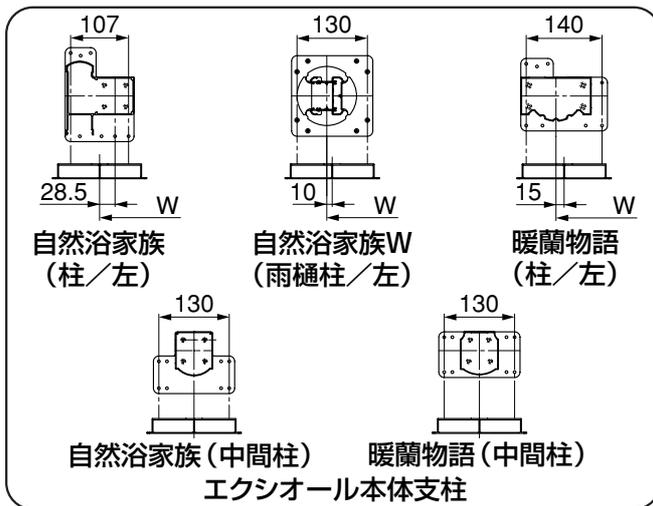


図6-1 使用区分

ポイント

- デッキを組立てる前に、最終現場プランの確認をしてください。
- デッキ上にフェンス類を取付ける場合は、床板の下面に床板補強材をあらかじめ取付けてください。
- 床板補強材はフェンスの取付位置により、長さ、必要枚数、取付寸法が異なります。
- 床板を組付け後にフェンスを追加する場合は、床板をいったん外し再度床板補強材を組付けてください。

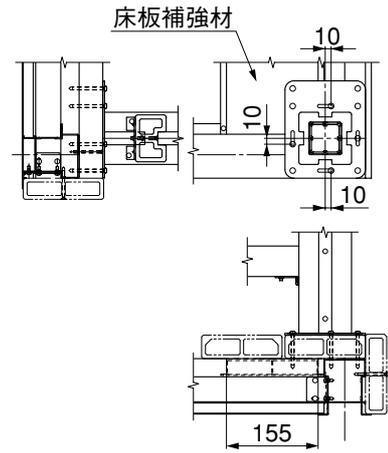
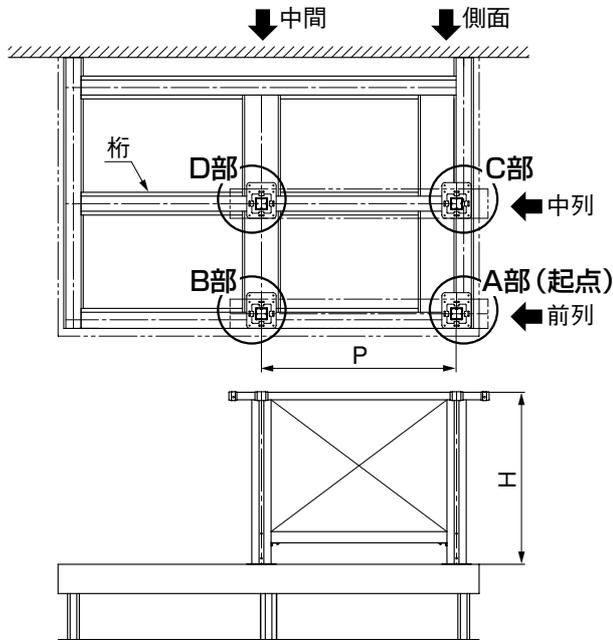
補足

- 床板補強材は、フェンス等をデッキ上に固定する際に取付けるネジを打つ相手になります。これは、ネジの保持力を出すために必要なものです。
- 床板補強材は、床板と平行に取付けます。
- 床板補強材切断寸法は、 $L=P-70\text{mm}$ になります。
- フェンス取付時の床板補強材の組付仕様がフェンスの種類によって異なりますので、図6-1 使用区分 (ベースプレートAあるいはB) をあらかじめ確認し、「6-2 ベースプレートAを使用する場合」以降の各取付方法を参照して行なってください。
 - ・ベースプレートA使用フェンス・・・ラチスフェンスT-6～T-12,ハイパーパーティションT-23,ウッドパーティションT-8～T-12
 - ・ベースプレートB使用フェンス・・・ウッドパーティションT-14・18
- エクシオール本体支柱の取付詳細は、各製品に同梱してある「デッキ編 樹の木<E120、E121、E122>」を参照してください。

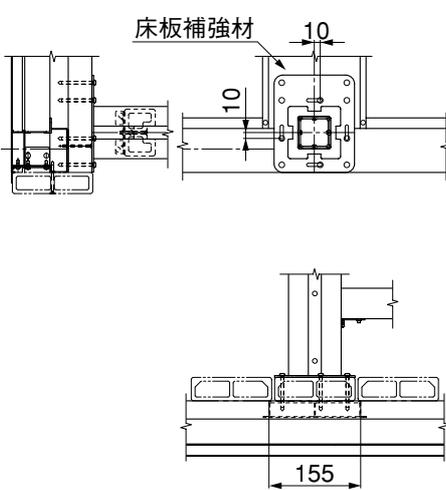
6. つづき

6-2 ベースプレートAを使用する場合

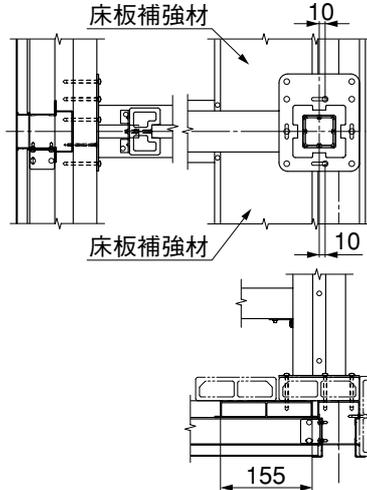
(1) 間口方向への取付け



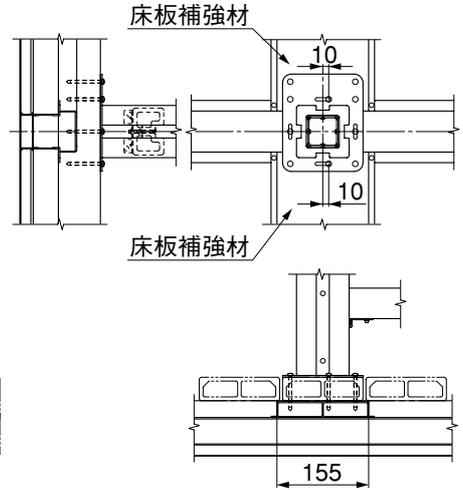
A部詳細図 角部前列納まり例



B部詳細図 中間前列納まり例



C部詳細図 側面中列納まり例



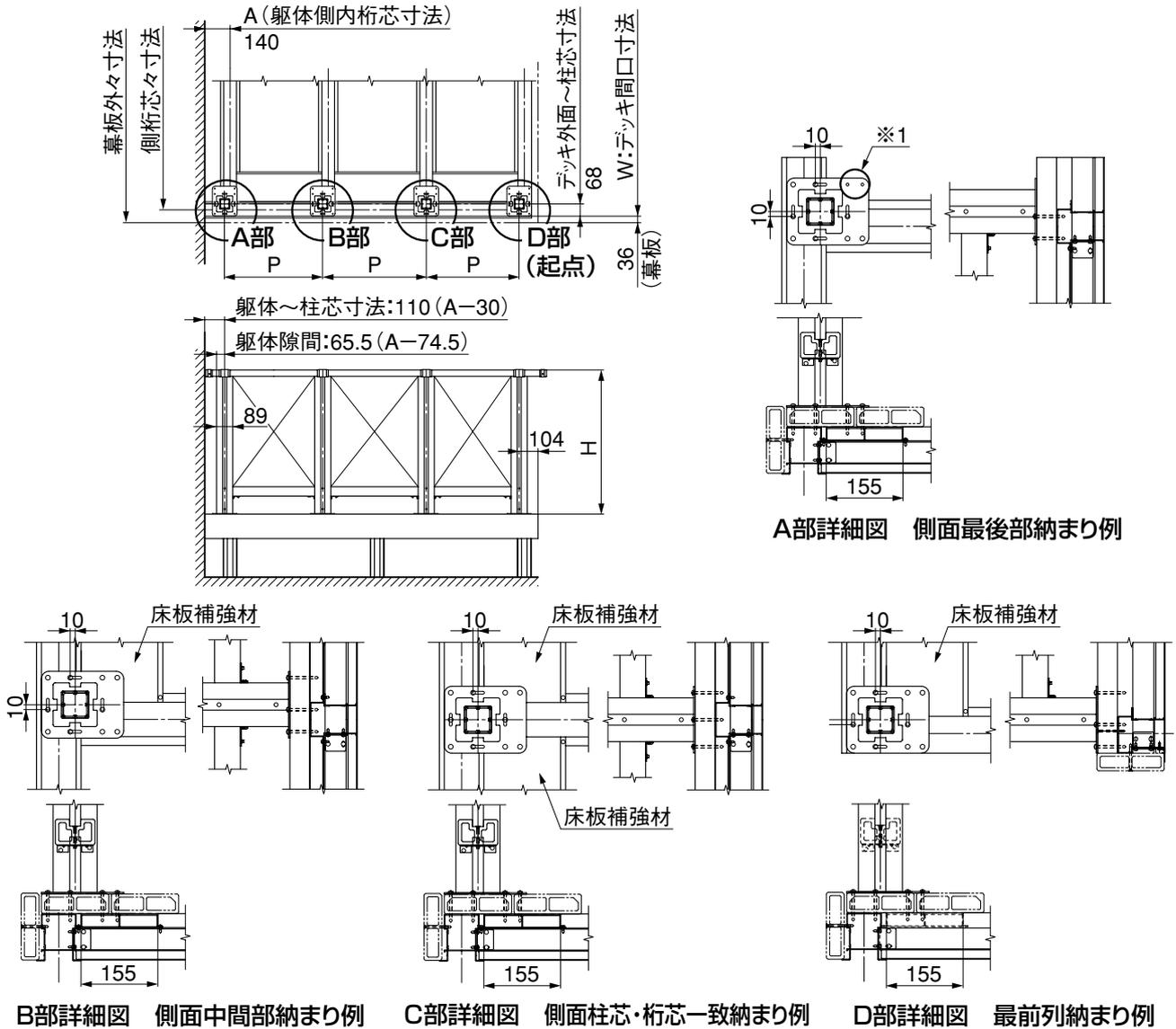
D部詳細図 中間中列納まり例

- ❶ フェンスの取付けの起点を定めてください。(本図ではデッキのコーナー部(A部)にします)
- ❷ フェンスの取付ピッチを決めてください。この際、フェンス柱の中心を前桁にマーキングしておいてください。
- ❸ ベースプレートのセンターと床板補強材のセンターが一致する桁間に、床板補強材を⑪-①で固定してください。

ポイント

- 図中C, D部のようにベースプレートが桁を前後にまたがり取付ける場合は、床板補強材を前後に2枚入れてください。
- 床板補強材を入れた中心線を、前桁にマーキングしておいてください。床板を取付けてしまうと、床板補強材の位置がわかりずらくなります。
- ベースプレートの固定ネジ位置詳細は、各フェンスの取付説明書を参照してください。

(2) 出幅方向への取付け



- ① フェンスの取付けの起点を定めてください。(本図ではデッキのコーナー部(D部)にします)
- ② フェンスの取付けピッチを決めてください。この際、フェンス柱の中心を側桁にマーキングしておいてください。
- ③ ベースプレート取付孔の下に床板補強材がくるように⑪-①で固定してください。

ポイント

- 図中C部のようにベースプレートが桁を前後にまたがり取付ける場合は、床板補強材を前後に2枚入れてください。
- 床板補強材を入れた中心線を、側桁にマーキングしておいてください。床板を取付けてしまうと、床板補強材の位置がわかりずらくなります。

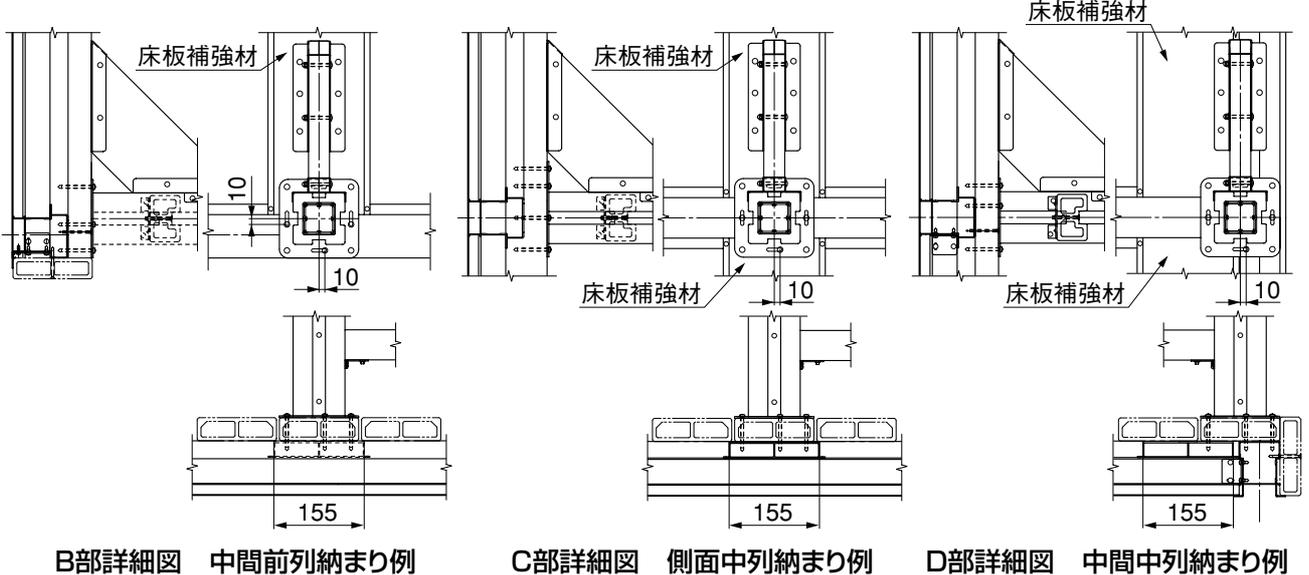
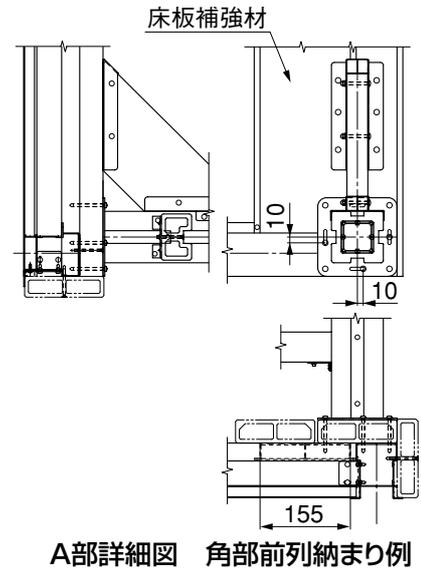
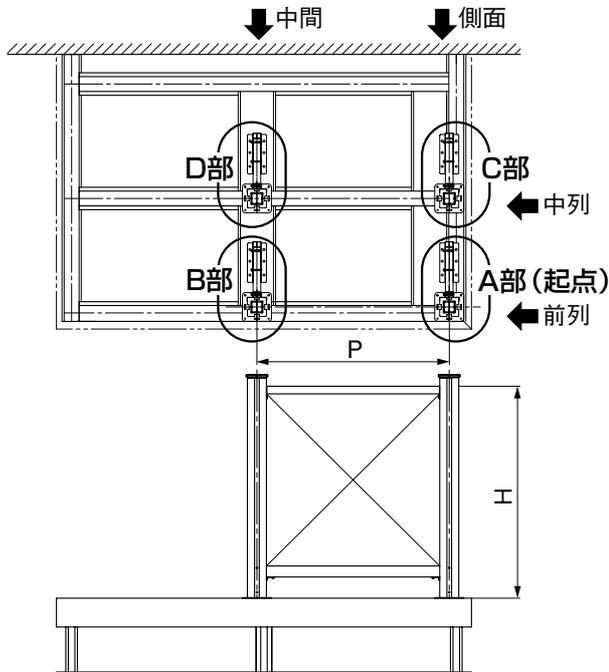
補足

- A部納まりは、標準デッキ寸法(A=140mm)のときを示します。この場合、躯体側へ床板補強材は取付けず、また2点の固定孔も使用しません。(※1)
- 躯体側へフェンスを移動したいときは、躯体と最後列内桁との間に床板補強材を入れてください。詳細は、「10.躯体付アングルの取付け」を参照してください。

6. つづき

6-3 ベースプレートBを使用する場合

(1) 間口方向への取付け

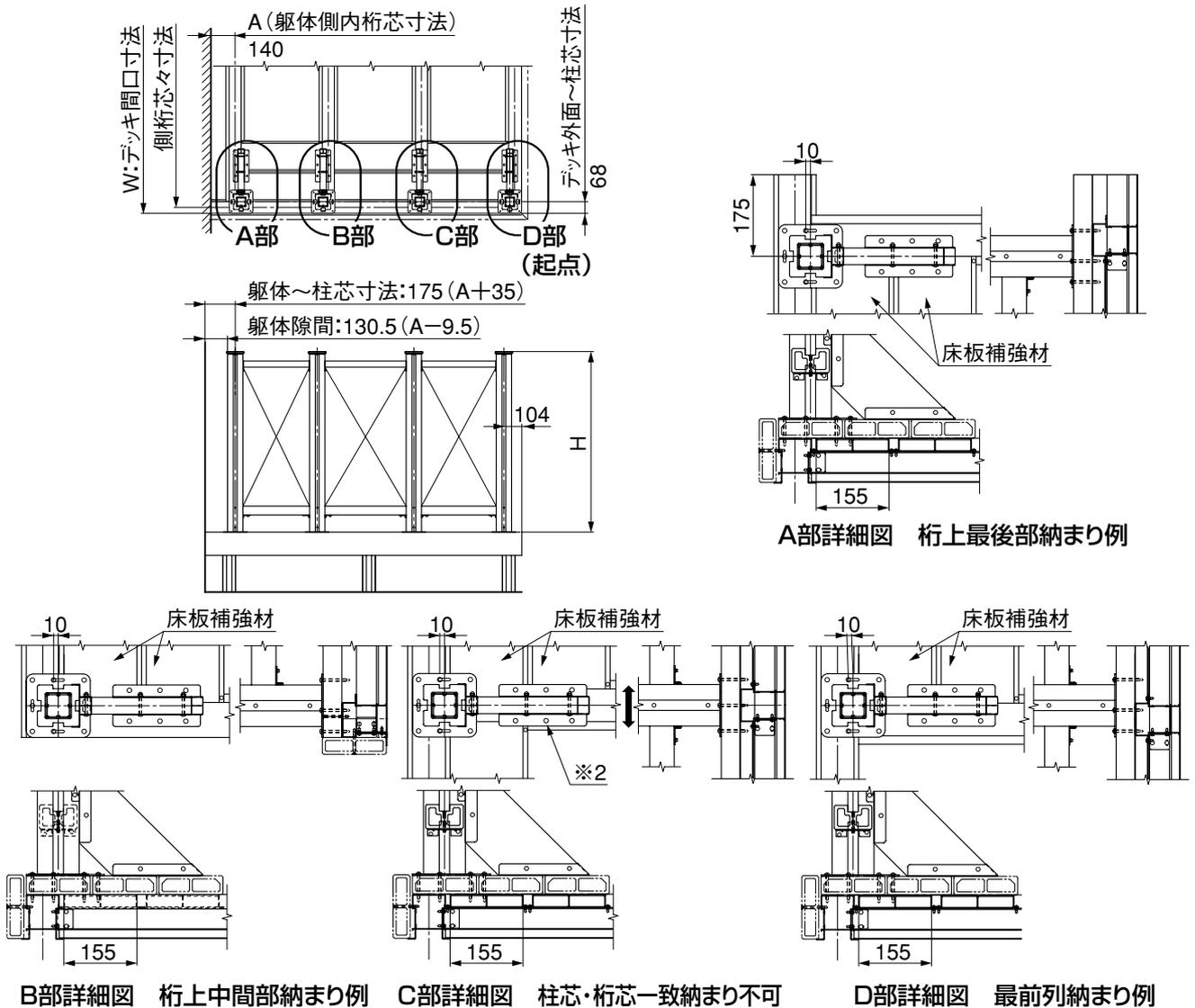


- ① フェンスの取付けの起点を定めてください。(本図ではデッキのコーナー部(A部)にします)
- ② フェンスの取付ピッチを決めてください。この際、フェンス柱の中心を前桁にマーキングしておいてください。
- ③ ベースプレートのセンターと床板補強材のセンターが一致する桁間に、床板補強材を11-①で固定してください。

ポイント

- 図中C, D部のようにベースプレートが桁を前後にまたがり取付ける場合は、床板補強材を前後に2枚入れてください。
- 床板補強材を入れた中心線を、前桁にマーキングしておいてください。床板を取付けてしまうと、床板補強材の位置がわかりずらくなります。

(2) 出幅方向への取付け



- ❶ フェンスの取付けの起点を定めてください。(本図ではデッキのコーナー部(D部)にします)
- ❷ フェンスの取付ピッチを決めてください。この際、フェンス柱の中心を側桁にマーキングしておいてください。
- ❸ ベースプレート取付孔の下に床板補強材がくるように⑪-①で固定してください。

⚠ 注意

- C部納まりでフェンス柱中心と桁中心が一致する場合は、前後どちらかに柱を移動して、B部と同様の納まりにしてください。移動せずにベースプレートBを固定すると、控部材側のネジが固定できなくなります。(※2)

🔑 ポイント

- ベースプレートB(控部材使用)を側面に取付ける場合は、必ず2枚の床板補強材が必要になります。

📝 補足

- A部納まりは、標準デッキ寸法(A=140mm)のときを示します。柱芯～躯体面寸法は、175mmの設定になります。
- 躯体側へフェンスを移動したいときは、躯体と最後列内桁との間に床板補強材を入れてください。詳細は、「10.躯体付アングルの取付け」を参照してください。

7. 床板の組付け

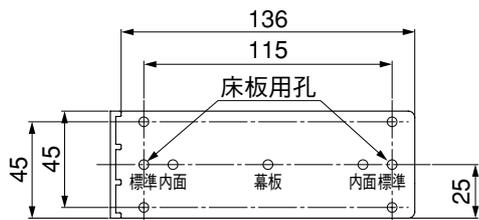
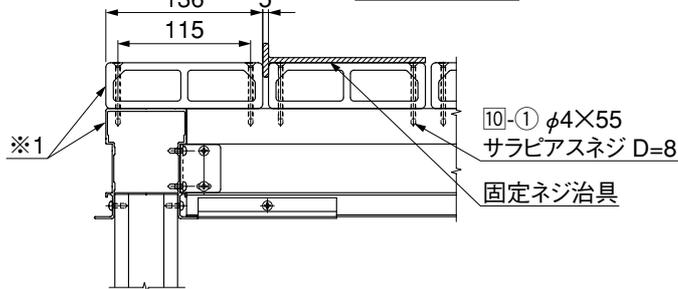
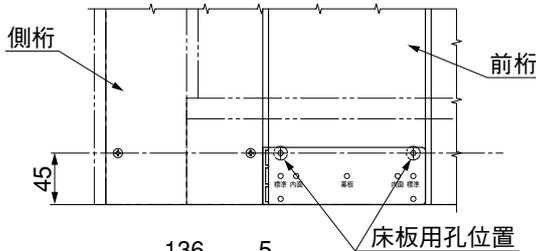
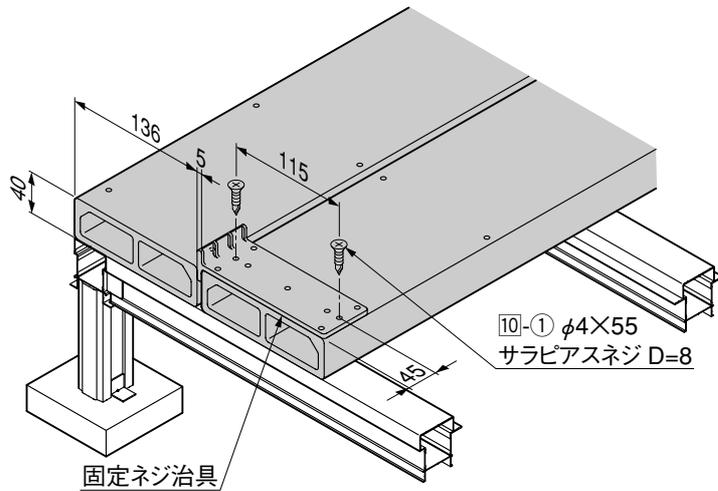
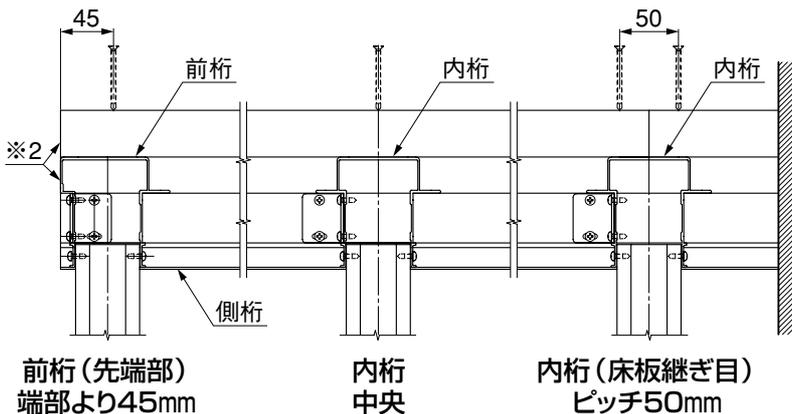


図7-1 固定ネジ治具



⚠ 注意

- 床板には上下の区別があります。
- 床板を固定する場合、付属の固定ネジ治具を使用してください。ネジ固定想定位置以外にネジを打ち込むと、材が割れるおそれがあります。
- ネジを打ち込む際に使用する電動ドライバー等での締付け過ぎに注意してください。締込み過ぎると材が割れるおそれがあります。

🔑 ポイント

- 固定ネジ治具の目地幅は、一応の目安にしてください。
 - ・デッキ両サイドから床板を張んでいき、床板残り枚数が全体の1/3になった時点を目安に目地調整をしてください。
- ネジ下孔のサラ取り加工は、市販の面取りカッター等をお勧めします。
- 孔加工用ドリルでサラ加工をする際、材への食付きに注意してください。

① 床板間に固定ネジ治具をはさみ、「標準」と刻印してある下孔(図7-1参照)を使い、φ4.5下孔とφ9サラ取りをしてください。

② 床板を桁に10-①で固定してください。

✎ 補足

- 床板を桁に固定する際、以下の点を確認してください。
 - ・床板の側面が側桁の外表面と一致している。(※1)
 - ・床板の先端が、前桁先端と一致している。(※2)

8. 幕板の組付け

8-1 直線・90°コーナー部の場合

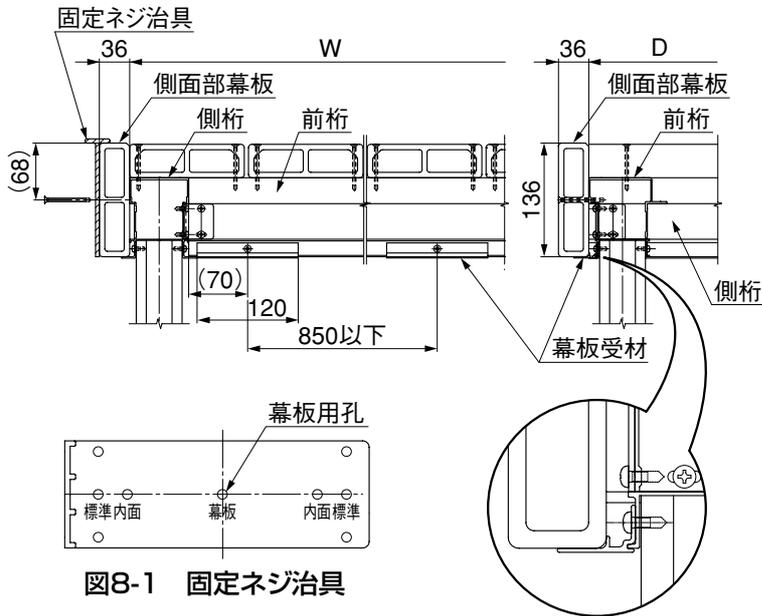
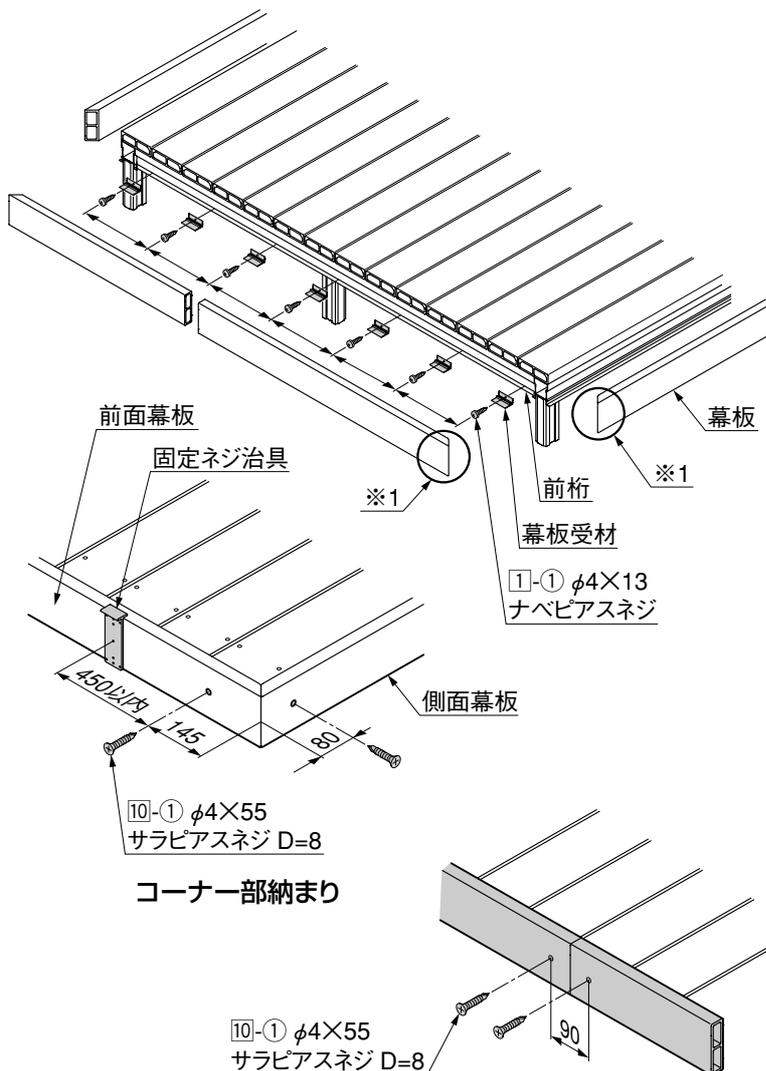


図8-1 固定ネジ治具

ポイント

- デッキ上にフェンスを取付ける場合は、フェンス取付け後に幕板を固定してください。事前にマーキングした柱のセンター位置がわからなくなります。
- 幕板受材は、前桁両端部と幕板の連結部には必ず取付けてください。
- 幕板受材の取付け最大間隔は850mm以内にし、ピッチに大きな偏りがない間隔に組付けてください。
- 幕板のネジ固定間隔は450mm以内にしてください。
- 幕板直線連結部のネジ固定間隔は、90mmを目安に固定してください。

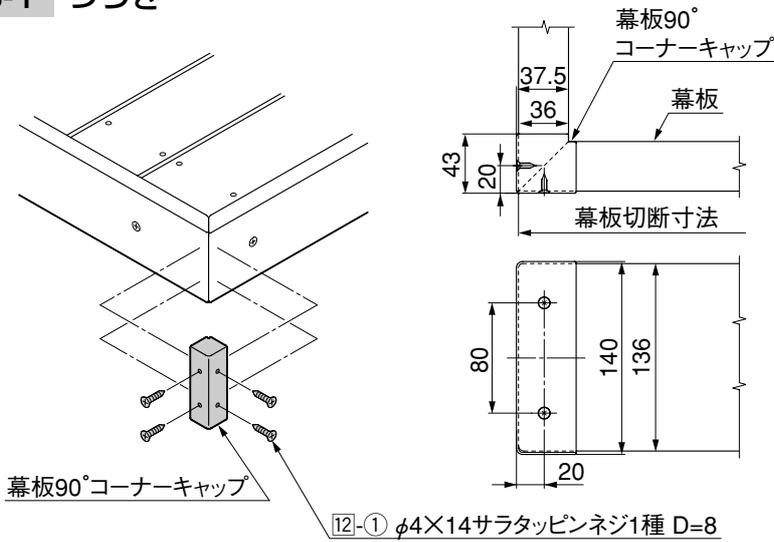


コーナー部納まり

- 1 幕板受材を前桁に①-①で固定してください。
- 2 90°コーナー部の幕板突き当て部は、お互いを45°切断加工してください。(※1)
- 3 固定ネジ治具を使い、材中央にφ4.5下孔とφ9サラ取りをしてください。その際、固定ネジ治具の「幕板」と刻印した中央の孔をお使いください。(図8-1参照)
- 4 幕板を桁に⑩-①で固定してください。

8. つづき

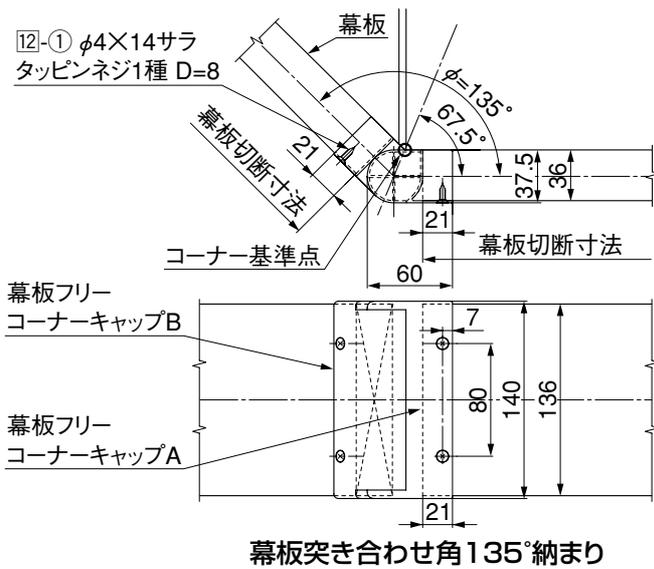
8-1 つづき



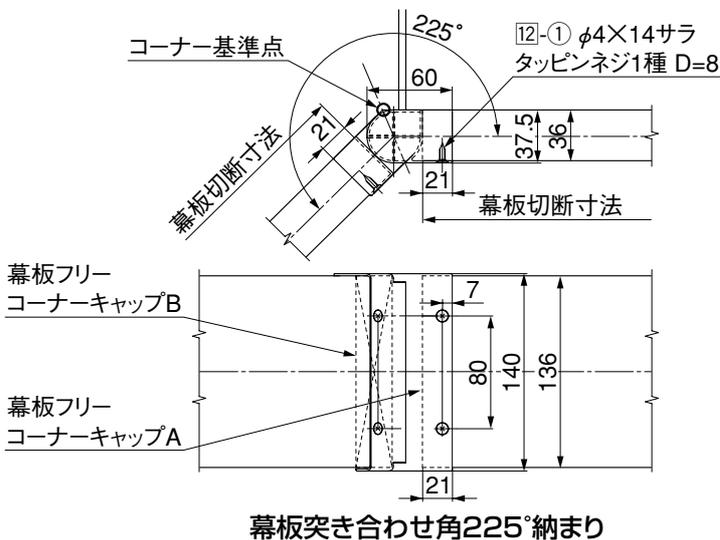
⑤ 幕板90°コーナーキャップを幕板コーナー部に現合し、ネジ固定部にφ2.5下孔をあけてください。

⑥ 幕板90°コーナーキャップを12-①で4ヶ所固定してください。

8-2 フリーコーナー部の場合



幕板突き合わせ角135°納まり



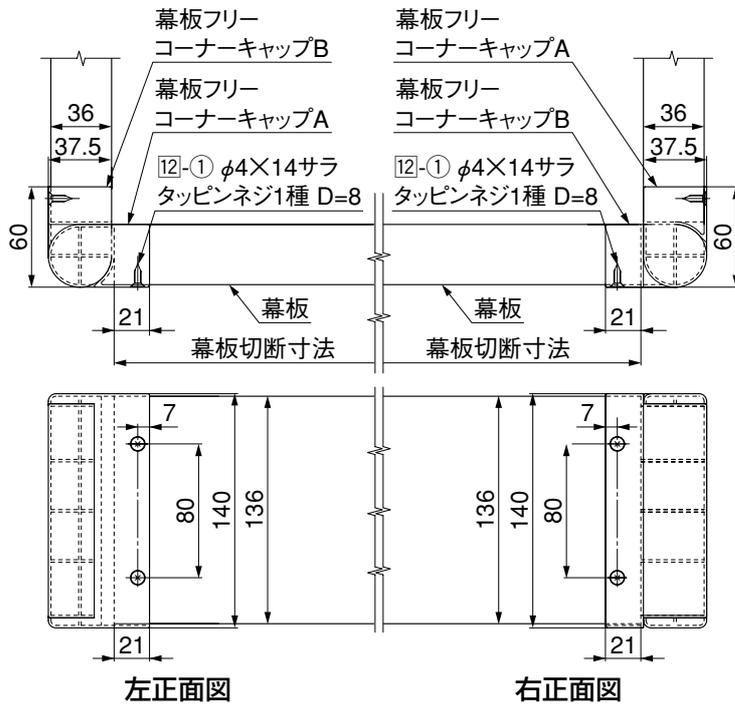
幕板突き合わせ角225°納まり

ポイント

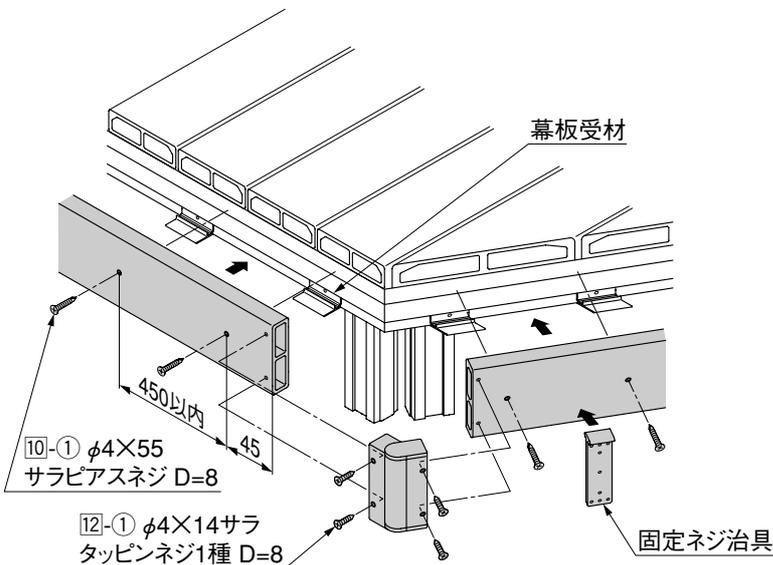
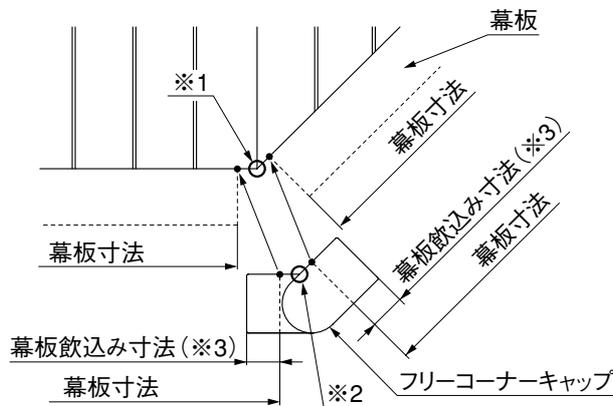
● 幕板フリーコーナーキャップの取付け可能角度範囲は、135°～225°です。

補足

● 幕板フリーコーナーキャップはお互いに分離していますが、幕板に固定した段階で一体になります。



左正面図
右正面図
フリーコーナーキャップ使用時の納まり



補足

- 幕板フリーコーナーキャップは納まり状態に方向性(上下の区別)があります。組付方法に違いはありません。

① デッキコーナー基準点(※1)に、フリーコーナーキャップのコーナー基準点(※2)を現合させ、幕板飲込み(※3)を床板にマーキングしてください。

② ①で付けたマーキングを目安に幕板を切断してください。

補足

- 角度切りは不要です。

③ 固定ネジ治具を使い、材中央にφ4.5下孔とφ9サラ取りをしてください。その際、固定ネジ治具の「幕板」と刻印した中央の孔をお使いください。

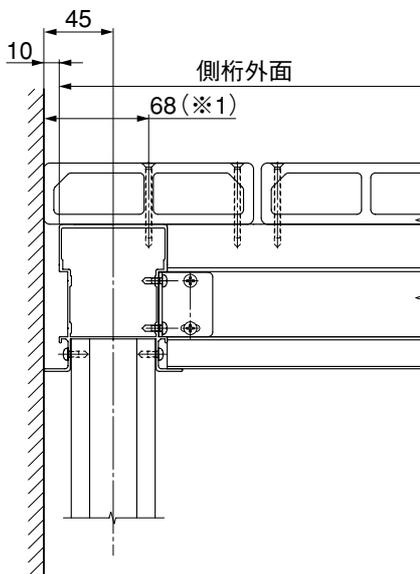
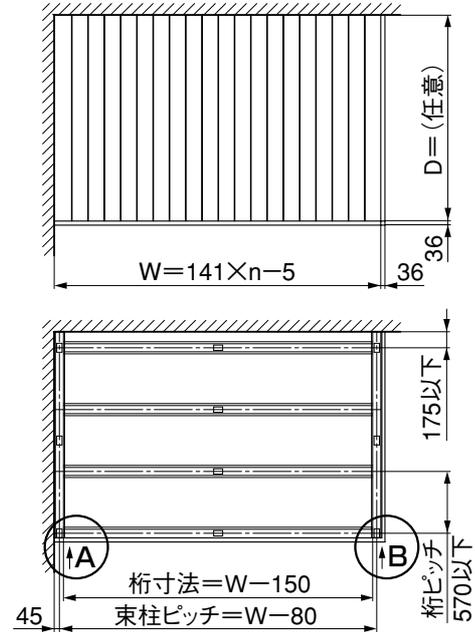
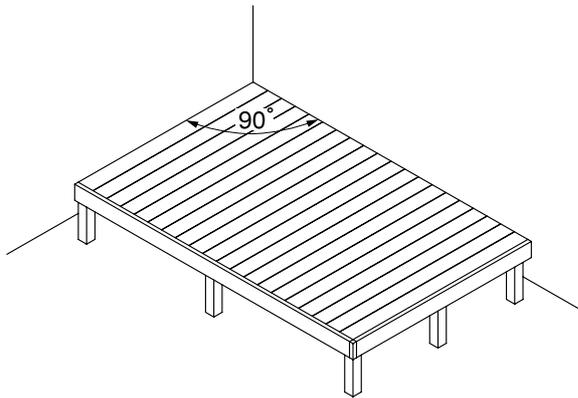
④ 幕板を桁に10-1で固定してください。

⑤ 幕板フリーコーナーキャップを幕板コーナー部に現合し、ネジ固定部にφ2.5下孔をあけてください。

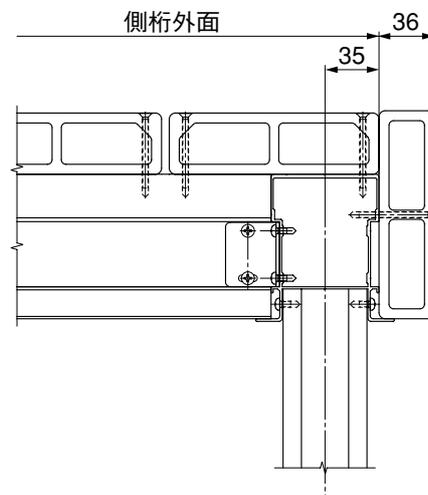
⑥ 幕板フリーコーナーキャップを12-1で固定してください。

9. 変形納まり詳細

9-1 躯体入隅対応



矢視A納まり図
躯体面との間隔0納まり



矢視B納まり図
標準納まり

ポイント

- 躯体寄りの床板と躯体面との間隔を0(ゼロ)で仕上げる際は、ネジの固定位置を中央にずらして固定してください。(※1)
- 標準納まりの場合(側桁外面=床板外面)は、床板固定ネジ位置は標準位置(治具位置)になります。

補足

- 床板中央にネジ下孔を加工する場合は、固定ネジ治具の中央孔(幕板止め用孔)を利用してください。

9-2 躯体出入隅対応

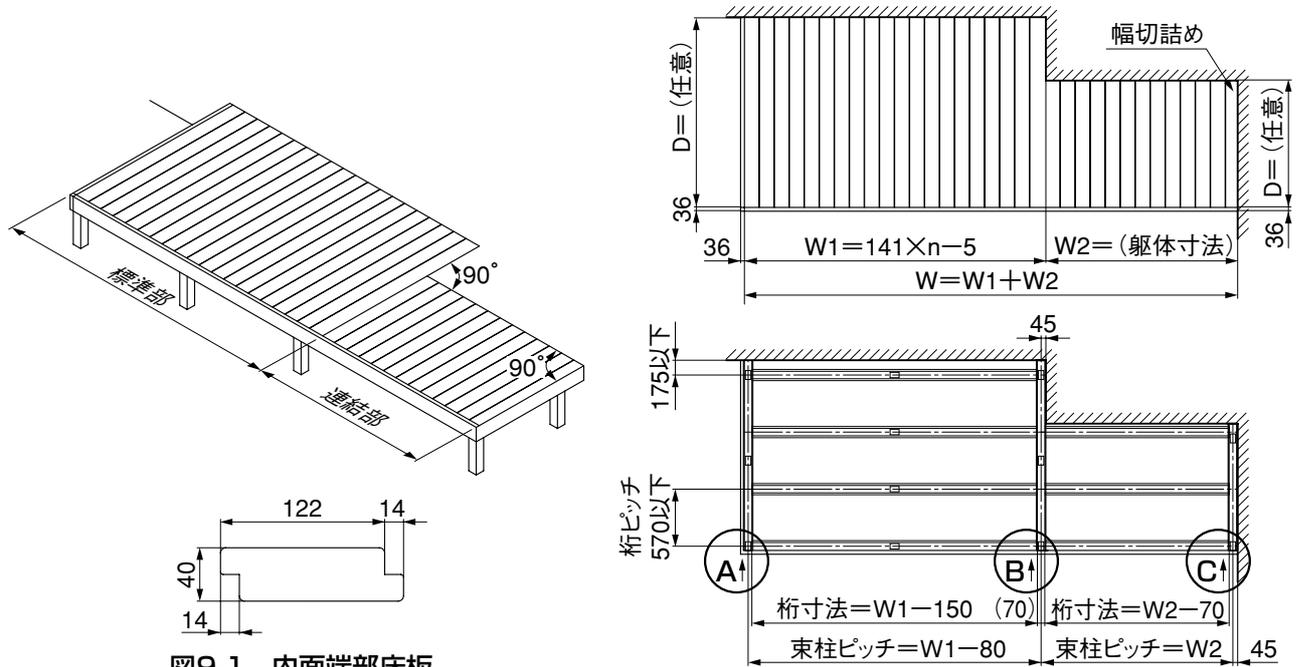
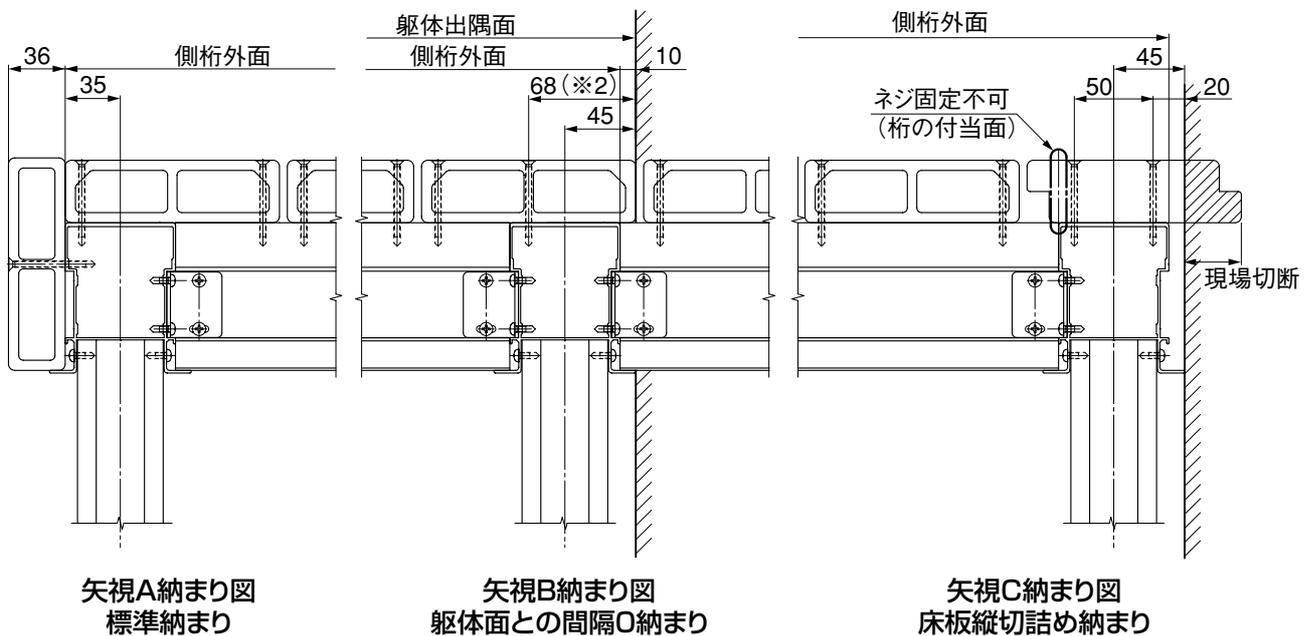


図9-1 内面端部床板



矢視A納まり図
標準納まり

矢視B納まり図
躯体面との間隔0納まり

矢視C納まり図
床板縦切詰め納まり

ポイント

- 躯体寄りの床板と躯体面との間隔を0(ゼロ)で仕上げる際は、ネジの固定位置を中央にずらして固定してください。(※2)
- 標準納まりの場合(側桁外面=床板外面)は、床板固定ネジ位置は標準位置(治具位置)になります。

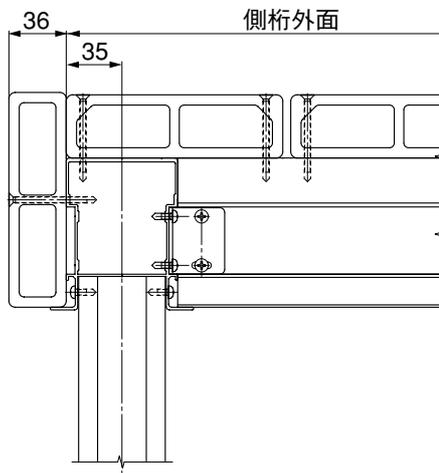
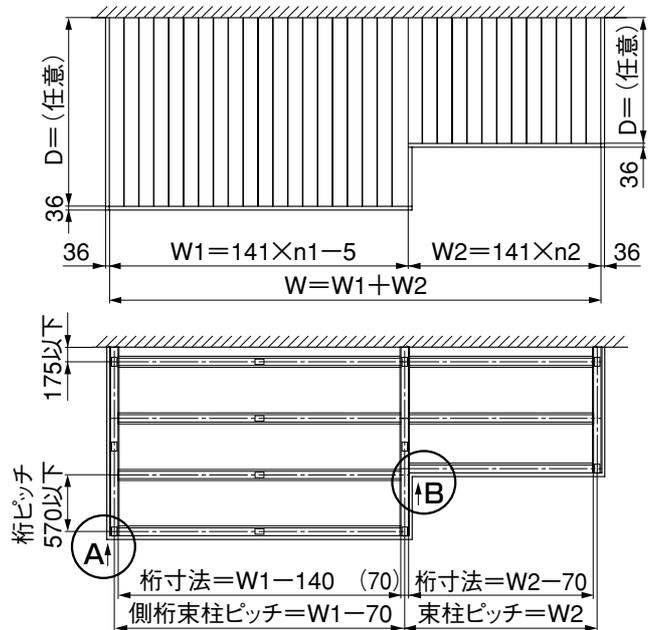
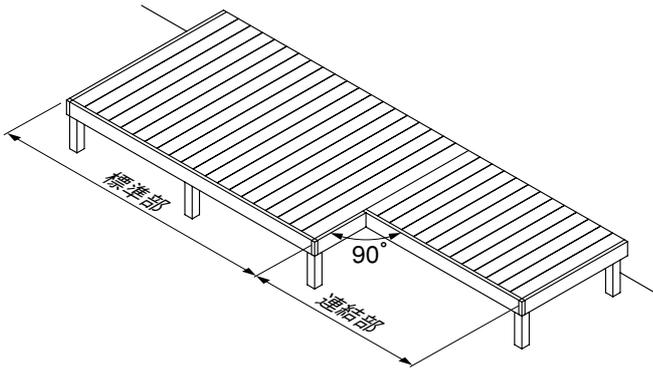
補足

- 床板の幅詰めが必要な場合は、内面端部床板をご使用ください。有効幅は122mmです。(図9-1参照)
- 標準部本体に連結部をプラスした参考型です。
- 側桁と前桁および内桁の組付方法は、標準施工と同じです。

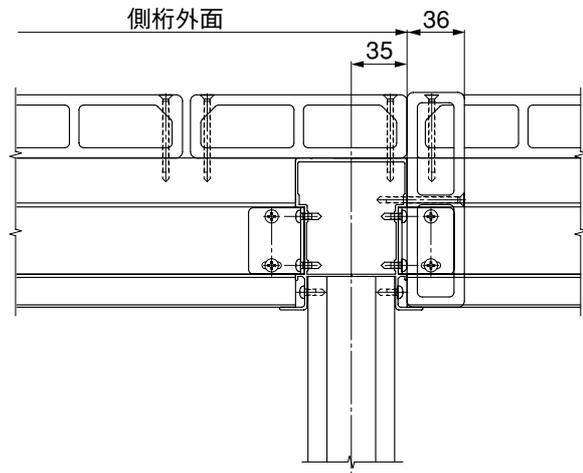
9. つづき

9-3 出幅違い／躯体直線対応

3 本体の施工方法



矢視A納まり図
標準納まり



矢視B納まり図
躯体面との間隔O納まり

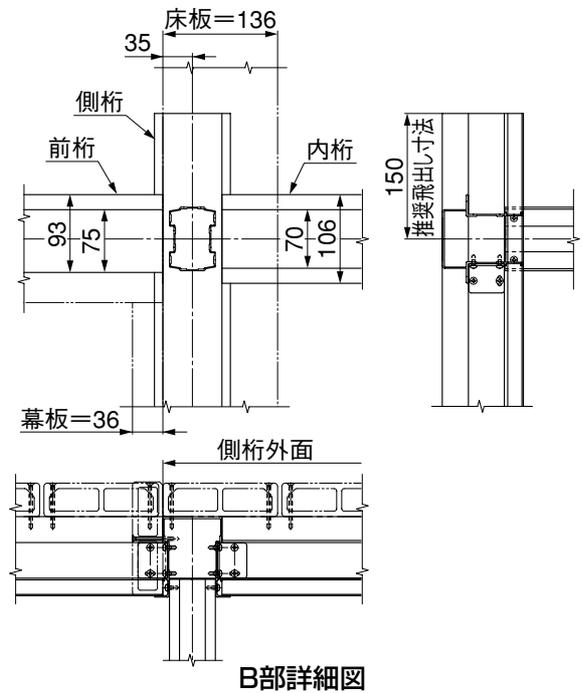
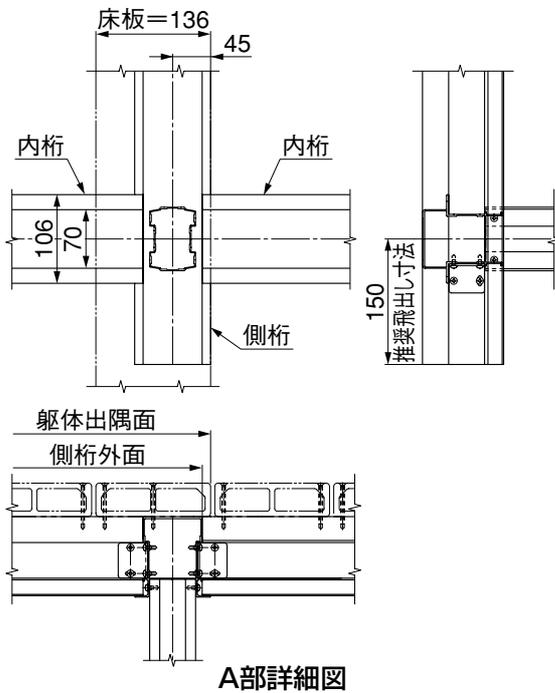
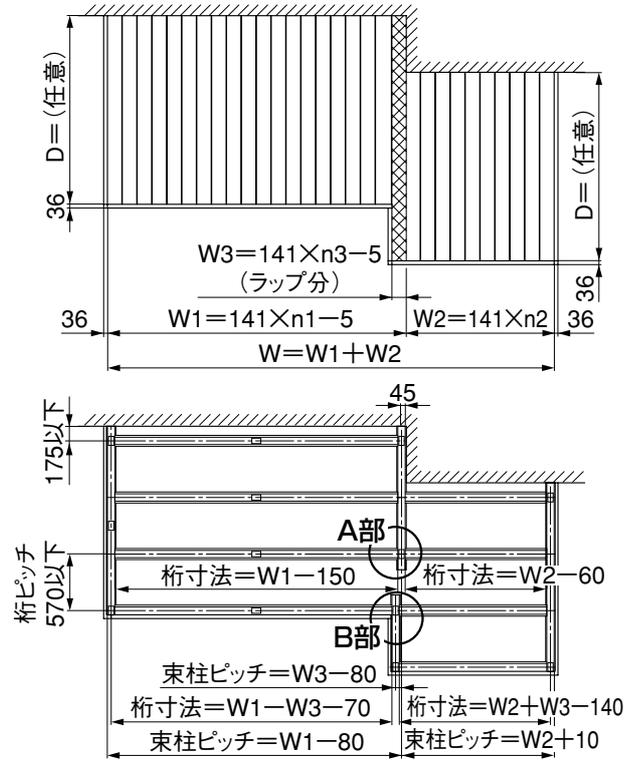
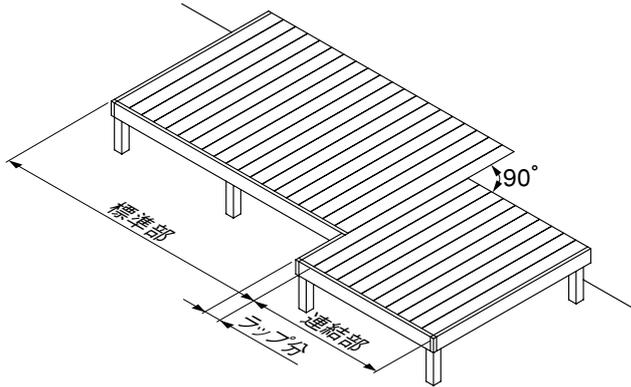
ポイント

- 標準納まりの場合（側桁外面＝床板外面）は、床板固定ネジ位置は標準位置（治具位置）になります。

補足

- 標準部本体に連結部をプラスした参考型です。
- 側桁と前桁および内桁の組付方法は、標準施工と同じです。

9-4 出幅違い／躯体出隅対応



ポイント

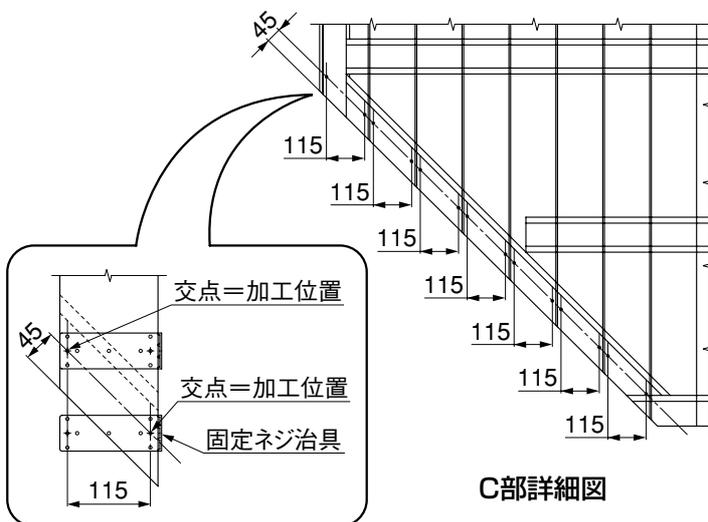
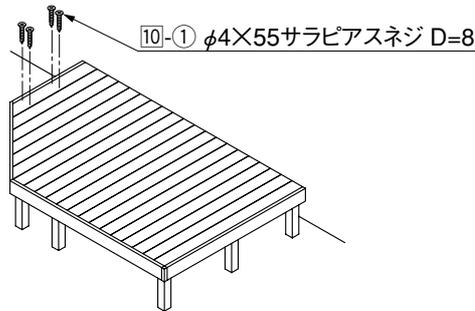
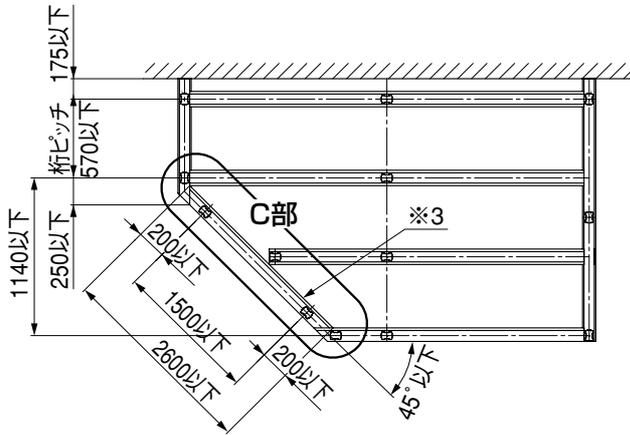
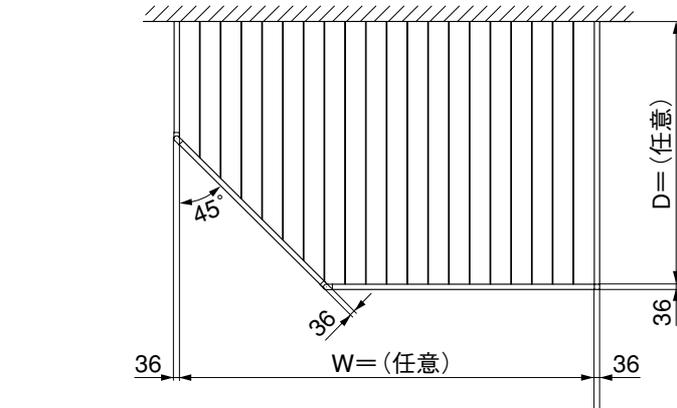
- 連結部側の床板を、標準部側と1列以上ラップしてください。

補足

- 床板中央にネジ下孔を加工する場合は、固定ネジ治具の中央孔(幕板止め用孔)を利用してください。

9. つづき

9-5 角切り対応



ポイント

- 床板の角度切りは最大45°です。
- 躯体までの角切りは不可です。
側面に直線部と、最低2列の内桁を残してください。
- 斜めに入れる桁は前桁を使用してください。(※3)
- 角部の桁の寸法は以下の通りです。
 - ・ 最大L寸法=2600mm
 - ・ 端部束柱支持寸法=200mm以下
 - ・ 束柱支持寸法=1500mm以下
- 角切り部の寸法は、出幅方向最大寸法=1140mm以下です。

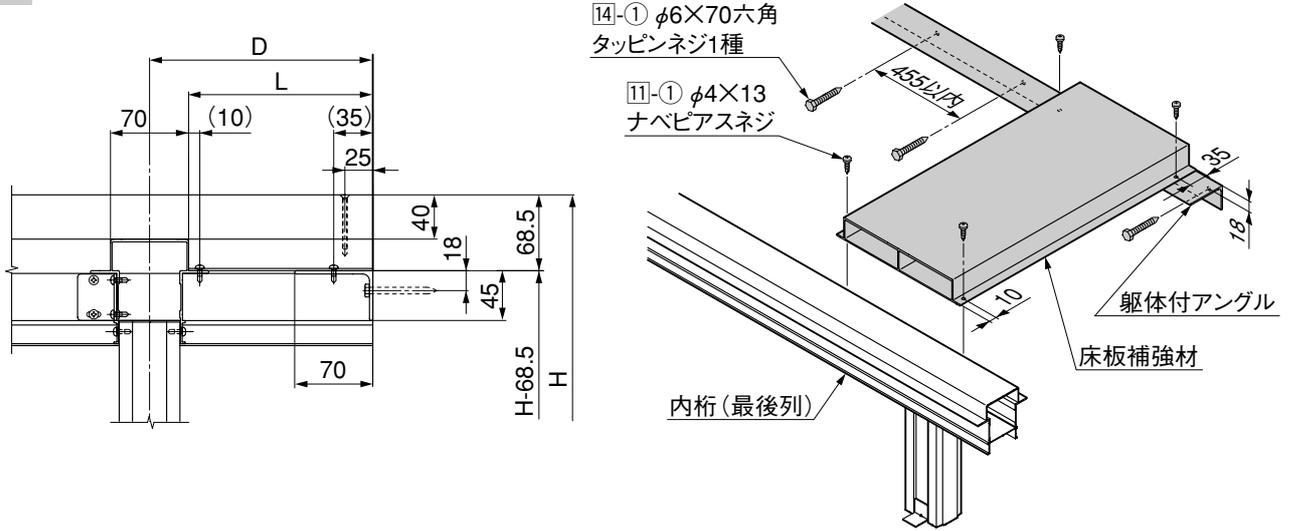
- ① 床板を角度に合わせて切断してください。
- ② 前桁の前面より45mmのライン上へ、固定ネジ治具を使い下孔とサラ取りをしてください。
- ③ 床板を⑩-①で固定してください。

ポイント

- 前桁の前面から床板が飛び出さないようにしてください。
幕板取付けの際、納まりですき間が生じます。

10. 躯体付アングルの取付け

10-1 躯体側への床板補強材の取付け

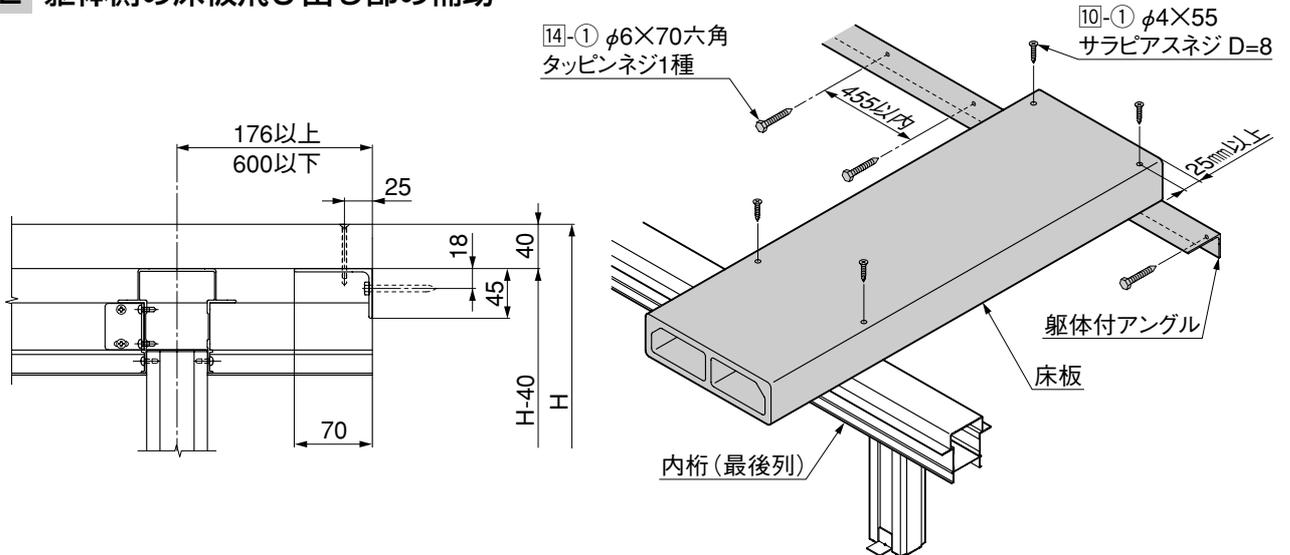


- ❶ 躯体付アングルにφ7取付用孔を、ピッチ455mm以内で加工してください。
- ❷ 14-①で躯体に固定してください。
- ❸ 床板補強材を切断してください。

補足

- 床板補強材の切断寸法は、 $L = D - 35\text{mm}$ です。
- ❹ 床板補強材を、内桁～躯体間に11-①で躯体に固定してください。

10-2 躯体側の床板飛び出し部の補助



ポイント

- 現場状況により、躯体面と躯体寄内桁(最後列)の距離が176mm以上のときは、躯体付アングルで床板端部を固定してください。

- ❶ 躯体付アングルにφ7取付用孔を、ピッチ455mm以内で加工してください。
- ❷ 14-①で躯体に固定してください。
- ❸ 床板を10-①で固定してください。

